

第31回
東西四大学合唱演奏会



第31回 東西四大学合唱演奏会

1982. 6. 20(日) 大阪フェスティバルホール

メッセージ



御挨拶

本日はお忙しいところ、東西四大学合唱演奏会に御来場下さいまして、ありがとうございます。

昭和27年に第1回演奏会を開いて以来、今年で第31回目の演奏会を迎える事ができました。これもひとえに皆様方の暖かい御支援の賜物と深く感謝しております。

早慶同関という長い歴史と伝統を持つ東西の四大学が、毎年、東京あるいは大阪で一堂に会し、それぞれの努力と精進の成果を発揮しあうことは、大変素晴らしいことだと考えております。今宵も各団がそれぞれの個性を十分に発揮した演奏ができれば、と思っております。

最後となりましたが、本日の演奏会を開催するにあたり、御支援下さいました諸先生、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも一層の御鞭撻をお願い申し上げます。

東西四大学合唱連盟



早稲田大学グリークラブ会長 上田 稔

東西四大学合唱演奏会は、昨年、第30回の演奏会を終え、新たな時代に向けての一歩を踏み出しました。年に一度、一年ごとに関西と関東と場所を変え、男声合唱界のトップに位置する四つの合唱団が、そして純粋に歌うことの好きな若者たちが、一同に会し、日頃の成果を発表し、啓発し合うと同時に、互いの親睦を

深めていくことは、大変に意義深いことであります。

さて、今年の早稲田大学グリークラブは、多くの行事を抱え、精力的に活動しております。しかし、そのような状況であっても、グリーメンたちは、音楽を通して得られる喜びを絶えず求め続けています。今回は、指揮者として小泉ひろし先生を初めてお迎えし、OBでもあられるヴォイストレーナーの山本健二先生と共に、例年以上に厳しい練習日程を続け



同志社グリークラブ顧問

東西四連は、今回で第31回の演奏会を迎える。四連はOB四連を生み、今やOBたちの第二世代が現役四連を推進する時代となって来た。これは現代のわが国の音楽界で、きわ立って意味のある状況であると思う。この四つの大学はいずれ劣らず、日本の近・現代史において、その政治・経済・産業・技術・教育・宗教・

遠藤 彰

思想の各領域でまことに大きな役割を果たして来た。四つの大学の卒業生に共通してみられる特色として、精神の自由さを指摘できようか、と私は考えている。体制や組織への無批判的随従やパブリックな福祉に無頓着な利益追求などを、人間精神の退廃として厳しく退ける自律的自由と社会奉仕の姿勢である。

音楽、とくに四連の音楽は、このような精神の世界に深く根ざす音楽であると思われる。音楽は音によって美的価値を



慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団部長 福岡正夫

青葉のシーズンとともに、今年も四連の季節がめぐってまいりました。東西四大学の男声合唱団が一堂に会して、日頃の練習の成果を世に問うこの演奏会において、きょうも必ずや期待を裏切らぬ名演奏がきかれますことを確信しております。

私ども慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団にとって、今年はいろいろと多面的な活動の年であり、定期演奏会や東京六大学合唱連盟定期演奏会のほか、すでにこの3月には一部団員がワグ

ネル・ソサエティー・オーケストラとともにザルツブルグ、ブレゲンツ両市でのベートーヴェン第九交響曲の演奏に参加しており、また8月には中国への海外演奏旅行も予定されております。創立80周年の記念すべき節目から新しい歩みを踏み出した現在、部員一同はあらためて気持を引き締め、一そう謙虚に努力を積み重ねていく心構えを固めているところであります。

こうした演奏活動をつつがなく続けてまいることができますのも、木下保、畑中良輔、大久保昭男の三先生をはじめ、三浦洋一、北村協一、福永陽一郎諸先生方のつねに変わらぬ暖かい御指導の賜であ



関西学院グリークラブ顧問 今田 寛

関西の学生スポーツに関心をお持ちの方なら、この春の関六騒動のことをよく覚えておられると思います。要するに関西六大学の野球も、東京六大学と同じように、関関同立を中心に、入れ替えなしの六校に固定しようとする動きでした。結果的には、連盟の名前こそ変わりましたが、固定制に戻ったわけですが、私はここで、このことの是非を述べようとし

ているわけではありません。つまり所は、「どの大学と一緒にやりたいか」ということについて重大な選択と決定をしたわけで、そしてそのことはとりもなおさず、「どの大学と一緒にやりたくないか」ということの意味表示になってしまっただけに、これからは、その選択にともなうて背負いこんだ大変な責任の自覚が重要だと思えます。

東西四大学の合同演奏会が昭和27年にはじまった時のいきさつは、上のような難かしいものではなかったものの、数多

てきたグリーメンたちの若い情熱が、今まさに燃えようとしております。

数日後には米国演奏旅行に出発する彼らにとっては、日本での歌い納めとなる本日の演奏会。必ずや、立派な成果があるものと確信いたしている次第ですが、これから益々の研鑽発展を期するために、宜しく御批判、御高評を賜らんことをお願い申し上げます。

創造し、意味を表現する。この価値や意味は、区々たる私利や術策の世界を超えた究極永遠の世界に連なる世界の事からである。この世界に鳴り響く音楽の美を体得し表現するためには、自由な精神は不可欠の前提でなければならない。

それゆえに、この四連の共同作業の歴史はきわめて大きな意味を持つと考えるのであるが、さらに今回もまた豊かな収穫をあげて将来に歴史を繋いで頂きたいと切望するものである。

り、きょうの演奏会でも、これらの師の恩に応えて、意味のある寄与を果しうることを心から念じてやみません。

この演奏会も今回が第31回目に当りますから、四連も30年の歴史を閉じたことになりました。このすでに築かれた伝統は、いうまでもなく参加四大学の機まざる努力をつうじて今後とも維持発展せしめていかなければならないものですが、同時に御来場の皆様方におかれましても、何卒旧に倍する御支援と御激励をお寄せ下さいますよう、切にお願い申し上げます。

くある大学の中で、四校が組んで演奏会をもつという選択をおこなったことと、それにともなう責任を背負いこんだ点では同じことだと思えます。今日では四校とも、コンクールに出なくなっただけに、日本の大学の合唱界の最高水準を絶えず目ざす責任はなおさら大きいと思えます。

何やら妙な御挨拶になりましたが、今日の演奏会が、先輩達のおこなった選択に対して十分責任をはたすことのできるような立派なものであることを祈っております。

エール交歓

●昼の部

早稲田大学グリークラブ
同志社グリークラブ
慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ

●夜の部

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ
早稲田大学グリークラブ
同志社グリークラブ

●第1部●

■早稲田大学グリークラブ

「ジプシーの歌」

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. わが歌ひびけ | 作詩 A. Heyduk |
| 2. きけよトライアングル | 作曲 A. Dvořák |
| 3. 森はしづかに | 編曲 福永陽一郎 |
| 4. わが母の教えたまいし歌 | 指揮 小泉ひろし |
| 5. 弦を整えて | ピアノ 久邇 之宜 |
| 6. 軽い着物 | |
| 7. 鷹は自由に | |

■同志社グリークラブ

「Vespergesang Opus 121」

- | | |
|---------------------|-------------------|
| I. Allegro moderato | 作曲 F. Mendelssohn |
| II. Adagio | 指揮 福永陽一郎 |
| III. Con moto | チェロ 小松 茂 |
| IV. Adagio | コントラバス 徳原 正法 |
| V. Andante | |

●Intermission●

●第2部●

■慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

「合唱のためのコンポジションⅢ」

- | | |
|------------|----------|
| 第一曲 「鱸」 | 作曲 間宮 芳生 |
| 第二曲 「羯 鼓」 | 指揮 木下 保 |
| 第三曲 「引き念仏」 | |

■関西学院グリークラブ

「ギルガメシュ叙事詩《前篇》」 昭和57年度委嘱作品

～ア・カベラ男声合唱とナレーターのための(1982)～矢島文夫の訳による

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1. はじまりの歌 | 作曲 青島 広志 |
| 2. エンキドウの創造 | 指揮 北村 協一 |
| 3. エンキドウ、人間のくらしを知ること | |
| 4. ギルガメシュ、エンキドウと力くらべをすること | |
| 5. 対 話 | |
| 6. フンババを退治すること | |
| 7. イシュタルの求婚 | |
| 8. エンキドウの夢 | |
| 9. たびだちの歌 | |

●第3部●

■合同演奏

「アイヌのウポポ」

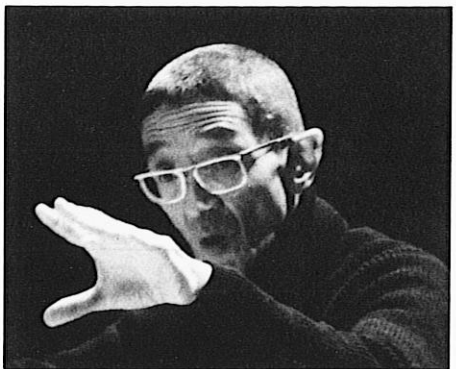
- | | |
|----------------|----------|
| I. くじら祭り | 採譜 近藤鏡二郎 |
| II. イヨマンテ(熊祭り) | 作曲 清水 脩 |
| III. ピリカ、ピリカ | 指揮 山田 一雄 |
| IV. 日食月食に祈る歌 | |
| V. 恋 歌 | |
| VI. リムセ(輪舞) | |

●第一部・第二部は昼夜で入れ替え。尚、第三部はそのまま演奏致します。



早稲田大学グリークラブ
指揮者 小泉ひろし

1943年東京生まれ。両親から音楽の早期教育を受ける。更に自由学園初等部、桐朋学園高等部で音楽の基礎を学ぶ。桐朋学園高等部から同学園音楽大学に進む。この間ブロックフレーテを森正氏、オーボエを鈴木清三氏、指揮を斎藤秀雄氏に学ぶ。1966年同大学を卒業に際して音楽賞を受賞。同大学指揮科の副手となり、また東京都交響楽団の副指揮者となる。67年民音指揮者コンクール入賞。70年東京都交響楽団を指揮してデビュー。同年秋、桐朋学園オーケストラのヨーロッパ演奏旅行に際し、斎藤秀雄、秋山和慶氏



同志社グリークラブ
指揮者 福永陽一郎

1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現・芸大）本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇氏にピアノを師事。在学中より東宝交響楽団（現・東響）で近衛秀麿氏の助手をつとめ、同氏に作曲法、指揮法、管弦楽法を師事。M・グルリット氏にオペラ指揮法を師事。

1951年藤原歌劇団に入団、同団常任指揮者として'65年まで活躍。その間同団第三次渡米公演を指揮し、また'59・'61・'63・'71年のNHKイタリア・オペラ来日公演に際しては、日本側代表指揮者として参加、副指揮・合唱指揮をつとめる。歌劇指揮者として広くその名を知られる一方、合唱界においても、プロ合唱団・

らと共に指揮者として同行、各地で好評を博す。そのままウィーンにとどまり、国立ウィーン・アカデミーの指揮科へ入学。スワロフスキー、メルティン、エッティ教授らの下で研鑽を重ね、74年春、最優秀の成績で同大学卒業。その間71年、72年夏、ケルンテン国際音楽祭でケルンテン歌劇場管弦楽団を指揮してテレビ出演。75年帰国、以後、各地で活躍中。現在、桐朋学園大学、フェリス女子短期大学各講師。日本合唱協会首席指揮者。

今夜、東西四大学の演奏会のステージにはじめて出演する事になりました。これまで何度か大学のコーラスで指揮をしてきたのに、どういう訳か女声合唱が多く、女性にかこまれて至福の喜び(?)を味わって居りましたが、遂に男性onlyの合唱を指揮する事になり、大きな期待をもって練習にのぞんで来ました。アマチュアの合唱団、特に大学の男声合唱ときくと、僕などいつだったかテレビで見たどこかの国の軍隊の閲兵式を連想してしまいます。服装から立ち振るまい、口の開ける時の大きさから、何から何まで一糸乱れずとは良く言ったもので、練習の時の最初と終わりの挨拶や練習中の態度等実に熱がこもっていて、やはりどうしても閲兵式が頭から離れません。あれだけ

東京コラリアーズを'52年に畑中良輔氏と共に設立したのを始め、多くの合唱団を育て、特にアマチュア音楽の育成にける情熱は大変なものである。

又、評論活動も多くの人々から注目をされ、著書には「演奏の時代」（紀伊国屋書店・カプセル書房）がある。合唱用の編曲は数百曲にも及ぶ。同志社グリー、早稲田グリー、法政アカデミー他、多くの合唱団を指揮する一方、藤沢市民交響楽団の常任指揮者をつとめ、'80年の藤沢市民オペラ「カルメン」の上演は多大の反響を呼び起こした。

1979年ウィーン世界青少年音楽国際合唱コンクール審査員。

早慶同関の東西四大学が連盟をつくって交歓演奏会を始めて、今回で31年目にはいろいろという時に当って、昨年、第30回記念ということでも合同演奏を指揮させてもらった時とはまた別の感慨がある。30年間というのは、昨年のプログラムにも書いたとおり、私の大学合唱指揮生活の全部と一致する年限で、ここいらでピリオドを打つべきだという考えと、31年目を期して、もう一度、合唱指揮の原点にもどってもよいな、という思いとが、交錯して定まらないのである。このような迷いを口に出すのも、あまり恰好のいいことではないけれども。

今年は、同志社グリークラブを指揮し

の熱の入った神経を集中出来るのは、やはり若さというものかとうらやましくなります。そして、その強い熱い、歌う事への情熱は本当に驚くばかりだし、一日の練習が終わった後は、疲れよりむしろすがすがしい気分になるのだから不思議なものです。

さて、今回のドヴォルザークの「ジプシーの歌」ですが、これはソロの声楽曲としてはあまりにも有名で、僕自身も大変好きで、ウィーンに留学中にも何回か聞いたものです。大自然に生まれ育ち、そして生きていくジプシーの気質を、ジプシー音楽独特のメロディーやリズムを織り混ぜて作曲された実に美しい作品です。ただこの曲の様に、音符には描き表わせないジプシー音楽特有の音の動きみたいな部分は、やはりソロで演奏させる方がより微妙なニュアンスを出しやすいと思います。けれども、そこは団員一人一人の研究と情熱でもって、何とかボヘミアの広大な草原を行く遊牧の民の行列や、ゆったりとした麻のシャツを着てタンバリンを打ち鳴らし踊るジプシー達が、今日のお客様の頭に浮かんで来たら本当にうれしい事だと思っています。

さあ、肩の力をぬいて、楽な気持ちで音楽しましょう。

て出る。同志社グリークラブという合唱団も、（私と似てというべきか）腰の定まらない浮沈のはげしい団体であるが、昨年あたり、どうもこのまま手を引くのでは、具合の悪い、無責任な首尾になりそうな様子で、もうすこし手をかけて、安定の基盤を固めてからでないと、離れるわけにはゆかないような、そういう気持ちでいっぱいになってきた。もう一回だけ本腰を入れてみよう。

本当は、今年あたりの東西四連から、継続的に同志社グリークラブの指揮台に立つことは止めようと考えていたのだが、いまは安心して去るわけにゆかぬ。と気持ちが変わって、そして今日が、その最初のステージなのである。東西四大学の演奏会というのは、まことにやり甲斐のあるステージで、この会は、私なり同志社グリークラブなりの気分を引き締めるのに、まことに好個の目標である。その場に出られることのラッキーさに対して、今年私たちがどう応えられるか。それが、今年からの同志社グリークラブの出発点であり、私の31年目の初心でもあるわけだ。

木下保先生も御健勝で何よりであるし、関学の初演曲、早稲田の初顔合わせの指揮者と、いずれも好演が期待される中で、私たちも「今年からは、」の意気を見せたいと思う。



慶應義塾ワグネルソサィエティー男声合唱団
指揮者 木下 保

明治36年10月14日、兵庫県豊岡に生まれる。大正15年東京音楽学校を卒業、昭和3年同校研究科を修了される。在学中はネトケ＝レーヴェ氏に師事された。昭和8年から10年まで、ドイツ、イタリアに留学され、ドイツではバイセンボルン氏に師事された。帰国後は母校の教授として教鞭を執るかたわら、リート歌手として活躍された。辞任後はオペラにも進出され、「タンホイザー」「ローエングリン」等数多くのオペラの初演をてがけられた。また、「夕鶴」等に代表される日本の歌曲に対しての卓越した解釈は、他の

追隨を許さない。現在では、東唱、日本女子大学、聖心女子大学など、プロ、アマの数々の著名な合唱団の指揮者として、御活躍されている。ワグネルは、先生が音楽学校に在学されている時からずっと御指導いただき、この50余年にわたる先生の御尽力に対して、慶應義塾の名誉塾員の称号が贈られた。なお、昭和46年秋に紫綬褒章を、52年春には勲三等瑞宝章を受賞された。

随想

間宮芳生作曲の合唱のためのコンポジションⅢは慶應ワグネル男声合唱団にとっては、過去度々の因縁めいた話があります。

昔話で相済まぬが、折角此の名曲が発表されたにも拘わらず、ステージで演奏されることは稀れでありました。

ワグネルも例外ではなかったのです。笑い話のような理由があったのです。それは二、三のワグネリアンが高校生の時、この曲を歌ってノイローゼのようになってしまった、と言う伝説が代々流布されて居たようです。

そんな話を聞いた途端に私が率先して演奏する気になって取り上げて見たら、皆が此の歌の素晴らしさに仰天したことを思い出します。

術家海外派遣研修生として渡欧。

畑中良輔、森正、今村征男の各氏に師事。現在、二期会専属指揮者。東京室内歌劇場指揮者。

原稿を書くことを業とする人にとって、又業としなくても書く事の好きな人には、書く場が与えられる事は嬉しいことだと思いますが、書くことが嫌な私にとって、毎回プログラムに書かされるのは、何より辛い。今回も書く事を強制され、書け、嫌だの問答の末敗北、こんな気持ちで書いた文なんか、のせる方が失礼だと思うんです。いつも人の気持ち知らず、勝手にプログラムにそのスペースを割振っているんだから、一種の暴力だと、文句を云っていく相手もなく泣寝入っている。

手紙は受け取り人しか見ないので、まるで話でもする様に書けますが、原稿でのるプログラムは誰にでも読まれる。しかも己れの愚かさを店開きしてる様な文しか書けないのでたまにうろたえています。御察し下さい。そのみじめさを。

昨年東京プロデュース制作で上演した、

其の後何回か定期で経験を重ね、今から十幾年か前にアメリカ演奏旅行に際して各地で好評を頂き嬉しかったことを思い出します。

特にニューヨークのリンカーンセンターでは聴衆の殆んど全員が立ち上って拍手を送って呉れて、その熱意に感動したことは生涯忘れられないことのようにです。

同じステージでマーラーの「さすらう若人の歌」をドイツ語で歌ったのですが、これはお義理の拍手でした。我々日本人は国際的なステージでは絶対に日本の曲に限るとつくづく思い知らされたのです。

コンポジションⅢは日本語ではあるに違いないが、第一の鱸は、海の男の作業の種類によって異った掛声の面白さが表現され、如何にも潮の匂のする逞しい単純な歌であるから、別に日本語を理解できないアメリカ人にも向いて居たのであろう。

第二は羯鼓を打つ打楽器の諸々の音を口三味線よろしく、黄金の倉主様を真面目可笑しく共に歌い楽しむ歌であり、第三の引き念仏も仏事のお祭りに用いる簡単な楽器をまじえて寧ろ陽気に「なむあみだぶ」と唱える最も日本的な匂いのする歌であるから、言葉として受け取る必要もなかったのであろう。

遠藤周作の「黄金の国」なるオペラ作曲し、指揮して評判をとった青島君とは、もう長い付き合い。人間としてもユニークだけれど、作品も面白く、是非そのうち男声合唱をと話したら、今回書いてくれることになった。

あまりむずかしくしないで、と云って受け取った一曲目が左程でなかったのも、少し複雑でもいいよ、と云ったら、現役のメンバーには昨年の平吉氏にも増して難かしい曲になってしまった様で、この点は大いに反省している。これからはやはり出来るだけ易しくと作曲家に注文しなけりゃいけない事を今回勉強。御聴き下さるとわかりますが従来の男声合唱になく多様な表現様式といろんなスタイルの音楽を内蔵する面白いものだと思います。現役は今迄に見たことのない譜面にとまどい、難しい音程に苦しみながら、頑張ってます。私もこんな文でお目にするよりもっと多弁な演奏を心がけています。



関西学院グリークラブ
指揮者 北村協一

昭和29年、関西学院大学経済学部卒業。在学中、関西学院グリークラブの指揮者として活躍。卒業後、東京コラリアーズ入団。昭和36年、藤原歌劇団入団、昭和38年同団によるブッチーニ「外套」を指揮し昭和40年退団。昭和43年、二期会合唱団常任指揮者。昭和45年二期会専属指揮者となる。昭和48年、第6回文化庁芸

「ジプシーの歌」の背景

アントニン・ドヴォルジャーク(1841—1904)は、自己の内部に脈うつスラヴの血の熱さを終生忘れることがなかった。「芸術家にはそれぞれ祖国があり、その祖国に確固とした信念と熱烈な真心を持っていなければならないのです。」と主張してDvořákの綴りに強く執着したというエピソードは、彼の祖国への愛の深さの例証となるだろう。

「枕の下にヴァイオリンをもって生まれてくる」と言われるほど生まれつき音楽好きなチェコ人も、当時はオーストリー文化面にも及ぶ統制にあえいでいた。スメタナ(1824—84)の「チェコ人の生命は音楽にある。」との言葉に励まされた人々は、民族独立と文化復興のシンボルとしてのチェコ国民音楽の樹立に期待し、チェコ語オペラの大成と、国立劇場の完

成を待ち望んでいた。

肉屋の息子に生まれたドヴォルジャークは、こうした情勢のもとで、よき理解者との出会いに恵まれて育っていった。ドイツ語教師リーマンによる才能の発見。一介のヴィオラ奏者として生活苦を背負いながら、独りで作曲を学んだ頃に受けたスメタナの精神的影響。やがて、認められて奨学金を得ることになり、ブラームス(1833—97)の好意的な引き立てに接した彼は、そのロマン派的手法を摂取することになる。そして、「スラヴ舞曲」によって熱烈な支持を獲得したのである。

「ジプシーの歌」は1880年の作品で、チェコ語の原詩を詩人自身がドイツ語訳したものがテキストである。ドイツのテノール歌手、グスタフ・ヴァルターに捧げられた。この曲はボヘミアの大地への

讃歌であり、ジプシーのエネルギッシュな生活への憧れに満たされている。大自然の摂理に直面して人間の卑小さ、生の限界を否応なしに見つめているが、運命を恐れてひれ伏すことなく——逃げることは許されていない。逃避は死を意味する——かえって勇敢に、情熱的に生きぬこうとするジプシーの群像、その姿は自由の回復を求めて闘うチェコの民衆の瞳にどんなにまぶしく映ったことか。

ドヴォルジャークらしい健康的な力強さ、躍動感、向日的な明るさの溢れるこの作品は、彼の歌曲のうちで最もポピュラーだといえるが、第4曲は特に親しまれている。そこからは、永久に変わることなく親から子へと伝えられる歌心、民族の精神、愛の温かさが、膚に浸み透ってくるかのようだ。

1. わが歌ひびけ
おれの歌がひびく、
愛の讃歌が——
一日が暮れそめる時に、
そして吾が、
しおれた茎が、
露の真珠をひっそりと飲む時に。

おれの歌がひびく、
旅の喜びに満ちて、
緑の森の枝の蔭で、
ブスタ(草原)の広大な野っぱらで、
たのしい歌声をおれはひびかせる。

おれの歌がひびく、
時には愛に溢れて
荒野に嵐がすさぶ時に、
生の最後の呼吸のために
兄弟の胸がふくらむ時に。

2. きげよトライアングル
どうだい、おれのトライアングルは、
なんとみごとに鳴ることだろう！
こんなひびきを耳にすれば
心もかるがると死んでゆける！

心もかるがると死んでゆける、
トライアングルのひびきが道連れなら！
歌よ、輪舞よ、愛よ、
みんなおさらばだ！

3. 森はしづかに
あたりの森はひっそりと静まり、
おれの心は不安に高鳴っている。
黒い煙がたえまなく舞い降り、
おれの頬つたを乾きあがらせる。
なあに、おれの涙は干上りはしない、
恋人の頬つたを求めてやまない！
悩みを歌にすることのできる者なら
死を呪ったりはしないだろう。

4. わが母の教えたまいし歌
年老いた母が
おれに歌を教えた時に、
しょっちゅう、まつ毛に
涙をためていた。

いまおれが子供たちに
歌のけいこをさせていると、
しばしば日やけした頬をつたって

涙がひげの中にしたたてくる。

5. 弦を整えて
弦の調子をあわせろ、
若者よ、輪になって踊れ！
今日はたのしく、
そしてあしたは？
昔の歌に心いためる！

いづれまもなくナイルのほとりで
ご先祖さまのお仲間入りだ、
弦の調子をあわせろ
踊りに加われ！

弦の調子をあわせろ、
若者よ、輪になって踊れ！

6. 軽い着物
巾着い、ゆったりと軽い
麻の着物にくるまっていると、
金や絹を身にまとうよりも
ジプシーたちは一層自由だ！

そうとも、金の紐つきジャケットは
やけに窮屈に胸をしめつけ、

放浪をこのむ自由な歌声が
ひびき出すのを邪魔してしまう。

それ故、歌のひびきに
喜びを感じる者は、
愚にもつかない黄金などは
地獄へ放りこんでしまおうがいい！

7. 鷹は自由に
鷹の羽音は、タトラの山の
いただきをめぐってはためくがいい、
鷹は岩間の巣を、鳥籠と
とりかえたりするだろうか？

荒野を駆けめぐる
たくましい若駒が、
くつわや手綱を
嬉しがることがあり得ようか？

ジプシーよ、自然がお前に
与えてくれたものがなにかあるか？
あるとも！ 自然はおれのために
自由な全生涯を創ってくれたのだ！



ピアノ伴奏者 久邇之宜

1972年国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子、近藤孝子氏に師事。小林道夫氏に伴奏法を師事。1979年から2年間、ウィーンに留学。現在、二期会、東京室内歌劇場、NHK他各方面で伴奏者として活躍中で、大学合唱団等アマチュアとの共演も多い。

VESPERGESANG Opus. 121

フェリックス・メンデルスゾーンは、その38年の短い生涯のうちに、おびただしい量の作品を残したが、オラトリオ「エリア」、「パウロ」をはじめとして、宗教音楽の分野でも多くの作品を書いている。メンデルスゾーンはユダヤ人の家系だが、父の代にキリスト教に改宗していた。独唱と合唱とオーケストラによる大曲は、前記の二大名作のほかに、未完成オラトリオ「キリスト」、5曲の「詩篇」やそのほか「讃歌」「モテット」「テ・デウム」などの類が22曲ほどある。その中で男声合唱用のものは、今回のVESPERGESANGのほかには作品115の「2曲の宗教的合唱曲」しかない。(非宗教的世俗合唱曲が多数あることは周知のとおりである。)

VESPERGESANG・作品121は、男声合唱(一部に独唱・重唱をふくむ)とチェロとバスによる伴奏のために書かれ

ている。1833年の作曲であるから、メンデルスゾーン24歳の作品ということになるが、この作曲家の天才ぶりから言って当然のことながら、手法はすでに円熟をきわめている。

まず、バッハ風のバス・コンティニューを思わせるチェロ・バスの前奏が続いて、三声部のきわめて厳格なフーガが開始され、ふたつ目の主題もまた、フーガとして展開される。ふたつの主題が同時に進行する二重フーガとなって、第1曲は終結する。

第2曲は独唱によるグレゴリオ聖歌の朗誦であって、次の三拍子の活気にみなぎる第3曲へとつながる。この第3曲は、四声部の男声合唱で書かれており、ポリフォニックな手法が精緻な仕上りを見せている。

第4曲は、第2曲のグレゴリオ聖歌に、さまざまに変化を示しながら和音がまっ

わりついてゆくもので、無伴奏四重唱で書かれている。(習慣で、小合唱としてうたわれることが多い。) 続く第5曲は、これまた完全にバッハ風の典型的な「コラール」であって、メンデルスゾーンが、この曲を作曲するに当たって、バッハの数々のカンタータを念頭に置いていたことは間違いない。なお、この曲にはラテン語とドイツ語の両方の歌詞がついていて、当時のドイツのルーテル派プロテスタント諸教会の音楽様式をうかがわせる。

原題は Ad Vesperas Domini cae XXI post Trinitatis, Respon sorium et Hymus と書かれていて、あるオケージョンにおける特定の目的で作曲された機会音楽であることを示している。めずらしい作品だが、日本初演ではない。

福永陽一郎

I Allegro moderato
Adspice Domine de sede sancta tua,
et cogita de nobis,
Inclina Deus meus aurem tuam, et audi.

主よ あなたの聖なる座から 見たまえ。
そして われらのことを考えたまえ。
私の神よ、あなたの耳を傾け、聞きたまえ。

II Adagio
Aperi oculos tuos et vide tribulationem
nostram.

主よ あなたの目を開いて われらの苦難を見たまえ。

III Con moto
Qui regis Israel, intende, qui deducis velut
ovem Joseph, qui sedes super Cherubim, intende.
Gloria, patri et filio, et spiritui sancto.

イスラエルを導きたもう主よ、われらの願いを聞き入れたまえ。
羊のごときにヨセフを率いたもう主よ、ケルビムの上に座したもう主よ。
われらの願いを聞き入れたまえ。(ねがわくば)父と子と
聖霊とに栄光あれ。

IV Adagio
(II・IIIを参照)

V Andante
O lux beata, trinitas et principalis unitas,
jam sol recedit igneus infunde lumen cordibus.
Te mane laudem carmine, te deprecemur vespere.
te nostra duplex gloria per cuncta laudet secula.

おお、祝福されし光、三位一体、初めにありし統一よ、
すでに燃えさかる太陽は遠ざかりぬ。(われらの)心に生命の
灯を注ぎ込みたまえ。
朝には 汝に讃歌を唱えん。晩には汝に許しを求めん。
われら一生涯、二重(朝と晩)の頌栄により汝をほめたたえん。



チェロ伴奏者 小松 茂

昭和35年、滋賀県に生まれる。
上村昇、黒沼俊夫両氏に師事。
現在、京都市立芸術大学4回生。
アンサンブル・ティアレメンバー。



コントラバス伴奏者 徳原正法

昭和35年、広島県に生まれる。
村上満志、西出昌弘両氏に師事。
現在、京都市立芸術大学4回生。
アンサンブル・ティアレメンバー。

合唱のためのコンポジションⅢ

日本には古くから伝わる民謡や社寺芸能など、日本人の生活の中で長い間歌い継がれ、育くまれ自然淘汰されてきた素晴らしい音楽がある。これこそ我が民族独自のものであり、日本の生活の中での素朴な感動から歌い出されたものである。この日本人の体内に存在している自然な音楽的喜びの表現こそが、このコンポジションの誕生のきっかけとなったのである。そして今までになかった新しいリズムや節廻しをそこに組入れることによって、実に身近な音楽的喜びを我々に体験させてくれる。

このコンポジションⅢは1963年春、我

々慶應ワグネルの委嘱で間宮氏が「鱸」「引き念仏」の2曲を作曲、さらにもう一曲「羯鼓」を加えて1964年1月「合唱のためのコンポジションⅢ」として木下先生のもとに初演を迎えたのである。ここ数年になって、あちこちでこの作品がとりあげられているが、やはり、木下先生を考えずして、この作品を語ることはいさまい。生まれてから西洋音楽に囲まれて育ってきた我々にとって、楽譜通りに演奏することはできても、日本語のもつ独特の発音による音楽性というものを表現するのは困難な事だからである。しかし木下先生の卓越した解釈と人生経験

豊かな先生の御助言により、先生の指揮のもとにこのコンポジションが演奏できることは、一生涯を通じてもそう簡単に得ることはできない貴重な瞬間であると確信している。

ワグネルのマーラー、シューベルト等のみを聞きたいと、お考えだった方、とにかくこのステージでは、日本の伝統音楽の素晴らしさ、自然の叫び、そして日本民族の歩んできた歴史の中での血と肉体の躍動を、“若き血”のかたまりであるワグネルの合唱によって、みつめなおしていただきたいと思います。

る。

岩手県の芸能を代表するものの一つに「山伏神楽」があるが、神楽にかぎらず他の芸能にも山伏の手が入った形跡があり、剣舞各種の巻物の内容や踊りの技法にもうかがうことができる。「鬼剣舞」などは、本来念仏踊りであったものが、舞台的な演出が主となり、一人狂い、二人狂い、三人狂いなどの狂い踊りの激しい表現をとり入れるなど、明らかに山伏の荒行を思わせるものがある。旧南部藩の民謡の中に、結婚や新築などの祝儀にうたわれる「御祝い」という曲があり、その中のセンヤーという歌い出しは明らかに早池峯系の神楽の神歌からきていることを示している。この曲は難曲とされているが、これを歌えることは長老の権威と結びつけられている。

口唱歌は、民俗芸能の口伝の方法である。即ち、笛や太鼓のリズムを文句のようにして覚えるものである。民俗芸能に限らず能や三弦の音楽にも類似の方法があるが、これはチャップという笛の口唱歌である。楽譜ではシャンの時、鈴や太鼓等と一緒に鳴るのであろう。音楽的見地からしても非常に合理的にできている。

魚で、殊に秋田県の名物魚として知られ、冬になって吹雪時に雷鳴があると海岸近くに群遊して来るので、ハタハタ、又はカミナリ魚と呼ばれる。

第二曲 「^{かつこ}羯鼓」
福島県相馬郡大野村の田打唄
九ツ黄金ノ蔵主様八四十四五トモ見エルトサア。

「羯鼓」は、北陸の田植唄と、東京都下の古い神楽とが素材となっている。「羯鼓」とは、寺社芸能などにしばしばある、儀式的プログラムの「入端」「出端」「かまくら」「羯鼓」等々の中の「羯鼓」をとって名づけられた。相馬郡大野村地方ではシホンコと称する四本鉦で田を鉦返す時にうたわれたもので、勿論これは多勢でユヒで仕事をする時に仕方の歩調を揃える為に用いられたのである。奥羽では昔は皆この鉦一本の労働であった。

第三曲 「引き念仏」
岩手県和賀郡岩崎村の〈鬼剣舞〉の〈引き念仏〉および〈センヤ念仏〉の口唱歌が素材であ

ギルガメシュ叙事詩〈前篇〉

～ア・カペラ男声合唱とナレーターのための(1982)～ 矢島文夫の訳による

あらすじと解説 青島広志

1872年に、大英博物館員のジョージ・スミスによって、古代メソポタミアの粘土板から解説された「ギルガメシュ叙事詩」は、もともと12の書板に3600行の楔形文字によって書かれており、現存するのは全体の約半分である。作曲にあたっては、詩の部分を矢島文夫の訳(筑摩世界文学大系/古代オリエント集)から選び、語りの部分は山室静の著書(児童世界文学全集/世界神話物語集)によって構成した。とくに詩については、破損のために解説不能となっている部分や、むだな言い回しを省いたりし、大幅なカットをおこなったが、作曲者による言葉の変更はいささない。(例外として、演奏効果のために指揮者の意見に従って変えた部分は二、三ある。)以下にそのあらすじと鑑賞のための手引きをかける。

①昔、アッシリアのウルクの町にギルガメシュという暴君がいた。町の人々は彼の乱暴を鎮めるために神に祈った。／ほぼホモフォニックに書かれているが、調は浮遊している。
②アルルの女神によって、力強いエンキドゥが創り出され、野原に住ませた。ギルガメシュは彼をおびき出すために美

しい女をつかわす。／前半は女神への呼びかけで、ファンファーレ。後半はバルトークまたはコダーイふうのフガートである。

③女はエンキドゥに人間の世界のしきたりを教え、ウルクの町へつれていく。／マドリガル。

④ギルガメシュとエンキドゥは出会い、大格闘のすえ引きわけになり、二人の間に友情が生まれる。／ここまでに使われた要素が顔を出す。後半は戦いの部分で、擬音による効果をねらった。また、かけ声による一種の即興が加わる。

⑤ギルガメシュはエンキドゥに、杉の森に棲む怪物フンババを退治しようともちかける。／2つにわかれた合唱の片方はエンキドゥで、ひたすら王をいさめている。あとから歌いだす合唱はギルガメシュで、血気さかんであり、最後に、エンキドゥはギルガメシュの調性にすいこまれ、同意させられてしまう。

⑥杉の森についた二人は、首尾よく怪物を殺す。／途中、戦いの描写では、8つの風の名を、8つにわかれた合唱が叫びあい、曲中最大のクライマックスとなる。
⑦ギルガメシュの男らしい姿を見て、大

女神イシュタルは結婚を申しこむが、彼は女神の悪行をなじり、エンキドゥとの友情のほうを守る。／東洋風なメロディーの上で、3部にわかれたカウンター・テナーが女神の求愛のことばを歌う。途中、スケルツォふうな舞曲になるが、最後で主題が再現する。

⑧イシュタルは腹を立て、二人の男のどちらかを殺そうとする。エンキドゥは病気になる、自分を人間の世界にひきこんだ女を呪うのだが、そこに太陽神がやさしく話しかける。／5つの高音を示すシュプレヒシュティンメによって書かれた神々の会議の部分、語りに合唱がハミングでからむ中間部をへて、全員で変イ長調のソングが歌われる。

⑨ギルガメシュは、エンキドゥの屍にとりすがって慟哭し、永遠の命を求めて旅出つ。／それほど深刻にならずに歌われることが望ましい。途中、エンキドゥのテーマがよぎる。

以上、これは舞台で、所作をつけて演じられる可能性を持つ作品である。また、まだ書かれていない《後篇》とあわせて、ひとつの大きなオラトリオをかたちづくることになる。その日を待ちたい。



青島 広志

1955年東京生まれ。

1980年芸大大学院修了。

池内友次郎、林光、矢野龍渓氏に師事。

作品には、今春、東京オペラ・ブ

ロデュース定期公演として初演された遠藤周作・原作によるオペラ「黄金の国」(作曲者/指揮・小田健也/演出)のほか、「マザー・ゲースのうた」(混声・女声・男声版)などがある。また、鍵盤奏者としての活動も盛んで、1973年より、著名な独奏者・合唱団との共演をはじめ、オペラやミュージカルの上演に数多く参加している。現在、東京芸術大学・都留文科大学・昭和音楽大学各講師、日本現代音楽協会会員および東京室内歌劇場会員。現住所：〒170 東京都豊島区駒込1-25-4 TEL03(946) 4046

＜経過報告＞

楽譜を見ただけでは、そう大したことはないと思ったが、いざ聴いてみると、圧倒的な感動をひきおこすことは、数多い。男声合唱曲というのも、私にとって、そのような、ひとつの謎だ。

もう、8年のおつき合いになる指揮者・北村協一先生とは、はじめ私はピアノ弾きとしての接触があったのだが、そののち、作曲をしていることを知られてから、男声合唱曲を書いたら使ってやる、という約束を、たしかかなり以前にとりかわした記憶がある。しかし、ひとつには、当時の私は、目前に迫っているメ切にのみ気が向かい、不確定な目的のために作曲する余裕がなかったこと、また、これは最大の理由だが、私に、この、ある意味では特殊な形態(作曲家は、混声合唱を基本として考えるクセがある)のために作曲する力が不足していたこと、更に、勤めれば、委嘱するに値する先生方はほかにいくらでもいらっしゃるの、私にはその役が回ってこなかったのだろう、というような理由から、私は、1979年にこの曲の一部(I・II・およびIVの断片)のみを書いて、放り出してしまった。そして、今年になって、私の旧作のオペラ「黄金の国」の初演をごらんになった

直後、北村先生は、私に、「あの約束はどうなったの」という電話をかけてくださった。聴けば関西学院グリークラブがとり上げてくださるとのこと。曲もできてないのに、そんなことを決めて大丈夫なのかと一瞬、心配にはなったがやはり、おだてられると嬉しくなる性質らしく、二つ返事でひきうけて、何もしないまま、一ヶ月の旅行に出てしまった。帰国してから、手をつけるまでかなり長い呻吟があって、結局、45〜60にかけて、すべてを作曲したのだった。驚いたことに(これは、男声合唱を書いた作曲家の多くが感じることらしいが)、書きはじめてからは異常な速さで筆が進み、2日に1度ずつ郵便局から大阪に速達を送り、その足で指揮者邸の郵便うけに放りこむといった日課が生まれ、その後、今度は大阪から毎晩のように問い合わせの電話がかかってくるようになった。恐らく、この曲は、これまで書かれた男声合唱曲のなかでは、もっとも長大、かつ、記譜法においても表現の多様性においても、多くの課題を含んでいるが、これを克服したときこそ、男声合唱界は、これまでの呪縛からとかれ、新しい地平が開けるのではないかと思われる。作曲者としては、胸をおどらせながら、初演を待ちのぞんでいる。

アイヌのウポポ

1961年10月23日に脱稿した。その年の春ごろ、立教大学グリークラブから、15分及至20分の男声合唱曲の作曲を依頼されていた。したがって、初演は同グリークラブの手でその年の12月3日に行われた。

ところで、「アイヌのウポポ」とは、どういう曲なのだろうか。以下少しばかり説明をしておきたい。

ウポポとはアイヌ語で歌の意味である。アイヌ民謡研究家の近藤鏡二郎氏の採集したアイヌ民謡の中から6曲を選んだ。同氏の曲集には日本語訳がついているが、作曲者は同氏にたのんで、すべてをアイヌ語にした。しかし、中には原歌詞の意味不明のものもある。出来るだけ調べていただいたが、どうしても解らないものはそのままにした。

I くじら祭り

フンベヤンナ フンボエ
ベシタヤンナ フンボエ
インカノウタル フンボエ
サバインカル フンボエ
カーカーカー……

II イヨマンテ（熊祭り）

ハエクデソオロ ハ！ハ！
ハウオ ハエタアタ
ハエクデランナ ハ！ハ！
ハウオ ハエタアタ

III ピリカ ピリカ

ピリカピリカ タントシリピリカ
イナンクル ピリカ
ヌンケクスネ ヌンケクスネ

IV 日食月食に祈る歌

チュプカムイ ホイ
チュプカムイ ホイ
エライナア ホイ
ヤイヌバア ホーキワ ホイ

I くじら祭り

これは踊りながらうたう歌で、鳥の鳴声がついている。鯨になってうずくまる人のまわりを鳥になった人が羽のように両手をひろげて踊る。フンベはアイヌ語の鯨の意である。登別の海岸にあるフンベ山や、室蘭イタンキ岬のフンベ島などともに、鯨の伝説がのこっている。

II イヨマンテ（熊祭り）

アイヌの祭りというイヨマンテが代表のようにいわれている。熊を檻の中にいれ、その周りで手拍子をうちながら歌い、その歌で熊を元気づける。次に、縄をつけた熊を檻から出して引きまわし、花矢を射かけ、首をしめて殺し、天国に霊を送る。この歌は檻の中の熊を元気づける歌である。

III ピリカ ピリカ

北海道の各地でうたわれている。わらべうたとしても。

IV 日食月食に祈るうた

神に捧げ、神に祈る歌はアイヌのうたに数多くあるが、これはその一つで、日食月食のときに祈る歌。日月を光神（チュプカムイ）といい、自然の不思議な現象に対する恐怖をうたう。

V 恋 歌

乙女の恋の悲歌。

VI リムセ（輪舞）

熊祭りや祝いの時に円く輪になって踊りながら歌う。原歌は三部又は四部の合唱となっているが、勿論ヨーロッパ音楽の合唱の概念には充当しない。

以上の原詞、訳詞及び解説はすべて近藤鏡二郎氏の著書及び同氏から直接に提供されたものによりました。厚く感謝いたします。

楽譜はカワイ楽譜から出版されている。（ビクターレコード「清水脩作品集」の作曲ノートより抜粋）

V 恋 歌

ヤイ サマネナ
サマニカシ クオソロシ
エヤミチカブ コリテンリテン
クコロボンユボ ウタントオッタ
ネブモンライケ

VI リムセ（輪舞）

ホイヤ ホイヤ
チャアホラレン チャホイヤ
カリニカホラリ カリニカホラリ
ヘハンネ ネ ヘハンネ
ホクン ハイホクン
ハイクル ハフンフ
ホロロロ……
ヘヤペエ チャナチャナ
ホロロロ……
ドンギッポ ハラヘ ハラヘ
ホワホイ ハイキヨ
ホロロロ……
ホマホマ ホイエ ホマホマホイエ

（鯨が浜で上ったよ、
目の見える人たち、行ってごらん）

（今日はよいお天気だ、
どなたが好き、えらんであげよ）

（光りの神様「太陽と月」
あなたは死んでしまった。
生き返って下さい。）

（林の木にもたれて、
小鳥の囀りをきく。
恋人は今ごろ、どうしていよう。）

（林の木にもたれて、小鳥の囀りをきく。
恋人は今ごろ、どうしていよう。——ヤイ サマ
ネナは はやしことば）

（すべて かけ声がはやしことば——ホロロロ
……は舌をころがすヨーデル）

“荘厳な讃歌”

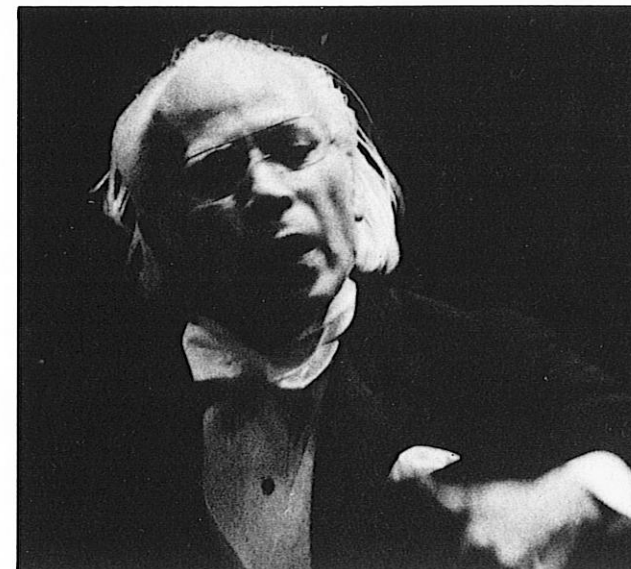
頭が途方もなくつかれると目をただつづる。気がつくときと静かな深い呼吸をしている自分に気がつくことがある。そんな時には、音という音のすべてはもう沢山、ただ静かにいたいと思うだけだ。ところが皮肉なもので、そんな時に限って朦朧の中、深奥から男声の荘厳な響きが讃歌のように聞えてくるのだ。

そしてなぜか女声が聞えて来たことなど金輪際ない。日常では決して女性を忌避する者ではないのに……。その神秘的な響きは、あたかも天地自然に宿っているうねりそのもののように無上にすばらしい。

60年もの前、実は子供心に比類のない初めての音楽的感動を受けた『関西学院』の男声合唱……。という幼児体験が、今の私の意識下に働いているのだろうか。

ともあれこのたび日本最高の男声「東西四連」諸君を喜びをもって指揮するにあたって、その音たちとの「接点」が、実は大正の昔に私の中にあったということを考えると、人生とは数奇にしていとも楽しいものと思ったことである。

山田一雄



合同演奏指揮者 山田一雄

1912年東京生まれ。学習院を経て現・東京芸術大学に入学。ピアノと作曲を学び、'35年同校を首席で卒業。

卒業後、外遊し、帰国後はピアニストとして活動する一方、作曲家としても'37年には自作の管弦楽曲で、“日本放送協会賞”を、'38年には交響詩「若者のうたえる歌」で“新交響楽団賞”を、また同年に交響管弦楽曲「交響曲木曾」により“ワインガルトナー賞”を受賞。この間に指揮法をヨゼフ・ローゼンストックに学んだ。

'40年、新交響楽団（現、N響）の常任指揮者に迎えられ、以後13年間、同じく作曲家で指揮者だった故尾高尚忠とともに、このオーケストラを支えた。

この間にストラヴィンスキー「春の祭典」、バッハ「ロ短調ミサ」、マーラー「千人の交響曲」など数多くの日本初演を記録しており、また日本人の作品の初演も多数にのぼる。1949年にはオペラ「ヘンゼルとグレーテル」の上演で“毎日音楽賞”を受賞。

1955年以降は、ドイツの各都市、ソビエト（ソビエト国立響）、チェコスロヴァキア（スロヴァキア・フィル）、イスラエル（イスラエル・フィル）、アメリカ、南米など海外での指揮も多くなる。

東京芸術大学の指揮科教授のかたわら、'72年～'76年まで京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者。

1976年10月、紫綬褒章受賞。'78年には四夜にわたる画期的なシリーズ「山田一雄の世界」（「ブラームスの夕べ」、「メシアンの夕べ」、「モーツァルトの夕べ」、「マーラー・千人の交響曲」）で文部大臣賞受賞。

現在は京都市響音楽顧問、日本合唱協会音楽監督、日本マーラー協会理事長など各音楽団体の理事、顧問などもつとめる一方、国際ハーブ・コンテスト審査員でもある。むろん国内の各オーケストラの客演指揮者としての活動は、多忙をきわめている。



大和銀行合唱団 創立30周年記念リサイタル

《プログラム》

- HARMONIE MESSE 作曲/JOSEPH HAYDN 指揮/松浦周吉
伴奏/山本寿太郎
- 混声合唱組曲「海鳥の詩」 作詩/更科源蔵 作曲/広瀬量平
- “We Love Harmony”
- (賛助出演) 陽声たまゆら会
女声のためのシャンソネット「I (愛)」より 作曲/湯山 昭 指揮/山本寿太郎

1982年7月11日(日) 午後 2:00 開演 大阪厚生年金会館大ホール

入場料 ¥500 (全席自由)

SAM Records

録音全般・各種レコード製作
株式会社 阪神ライブレコーディング

〒651 神戸市中央区上筒井通5-2-10
TEL (078) 241-1899 (代)

陽気な仲間のゴージャスな乾杯ゾーン

祇園でカンパ〜イ!

屋上ビアガーデン

※その他ご予算に応じて各種ご用意させていただきます。

★営業時間 PM5:30→PM9:00 土曜日9:30まで

★期間 5月7日〜9月5日予定(8/16は大文字送り火のため休業)

ご予約専用TEL 551-2111 (内線108番)

MENU	
A 3,000円 お1人様 生ビール中2杯	串かつ・シューマイ・チキンからあげ・ 春巻き・チーズとサラミ・フライポテト・ 枝豆・サラダ・おつまみ
B 3,500円 お1人様 生ビール大1杯・中1杯	串かつ・シューマイ・チキンからあげ・ 春巻き・チーズとサラミ・フライポテト・ 枝豆・サラダ・おつまみ・ヤキトリ・ フライドシュリンプ
C 3,500円 お1人様 ジンギスカンセット 生ビール中2杯	ジンギスカン鍋・枝豆・フライポテト・ おつまみ・スモールサラダ



「京のこころにふれる」
京都 祇園ホテル
祇園・八坂神社石段下 ☎075(551)2111

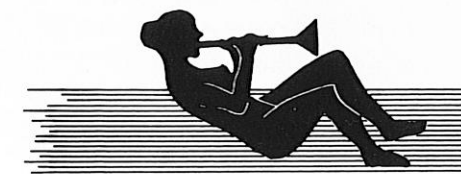
高級茶房

ロビー

京阪・地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅
日土地ビル・エールフランス横

きつさ ミミー

京阪・地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅
日土地ビル・地下1階



株式会社 みずしま
TEL (06) 201-5953

ティーサロン・ブティック

美智子

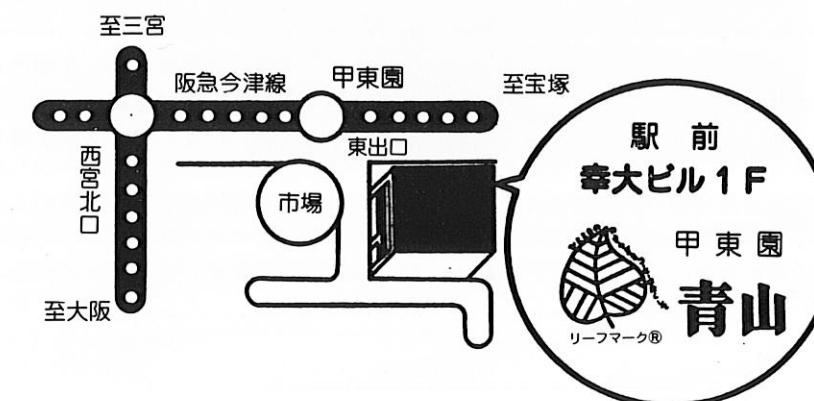
近鉄上六駅前
ハイハイタウン2階中央

珈琲英 ロビー

地下鉄谷町線
太子橋今市駅5-6号出口スグ

青山

三宮一塚口一大阪





まだ早稲田の杜がその名の通り杜であった明治40年、グリーの前身である合唱団は産声を上げました。それから数えて今年で75年目。この長い伝統と、磯部徹・岡村喬生・ボニージャックス諸氏をはじめとする先輩諸兄の熱心な御指導・御協力に支えられて、早稲田グリーは着実に成長して参りました。そして時には、このような伝統の重さに押し潰されそうになりながらも、持ち前のチャレンジ精神を発揮して、常に前進を続けて参りました。

早稲田グリーの1年は、12月の定期演奏会終演の瞬間にスタートします。前期は、2年生以上のメンバーで、送別・東京六大学・早慶交歓（隔年）の各演奏会を消化し、最も充実した時期に、前期最大のイベントであるこの東西四大学合唱演奏会を迎えます。その後、夏休みの演奏旅行で日本各地を回り、合宿を経て、後期からは1年生を加えて、定期演奏会へと活動の指針を向けて行きます。またこの他にも、隔年の早稲田大学フロイデ

・ハルモニーや年末の都響・東響の「第九」出演、外国の大学との交歓演奏会、テレビ・ラジオ出演、レコーディングなど特徴ある演奏活動を続けています。さらに、今月末には、1979年に続いて4回目の海外演奏旅行となる米国演奏旅行に出発いたします。

さて、早稲田大学グリークラブの常任指揮者が、この数年の間空席になっていた事を御存知の方も多と思います。しかし、私達はこれを「ハンディ」ではなく、より多くの先生方の音楽に触れる「チャンス」だと考えております。そこで今年の四連は、初めて小泉ひろし先生をお招きし、先生とヴォイス・トレーナーの山本健二先生の御指導のもとに練習を続けて参りました。授業を終え、テニスラケットを小脇に抱えて歩く女の子達を横目で見ながら練習に急ぐグリーメンたち。決して根が暗いではありません。私達は練習がすべてです。幸いにも私達は、福永陽一郎先生、小林研一郎先生、山本健二先生といったよき理解者・指導

者に恵まれ、充実した活動が可能になっております。

4万余の学生がひしめく早稲田大学、星の数ほどもあるクラブ・サークルの中からグリーを選び、歌い続けている私達グリーメン。大学創立100周年、クラブ創立75周年、そして定期演奏会が30回を数える今年、早稲田グリーの一員として歌えることを、私達は皆誇りに思っております。そして、その誇りを胸に本日はステージ上で燃えつきたいと思っております。

早稲田大学校歌「都の西北」

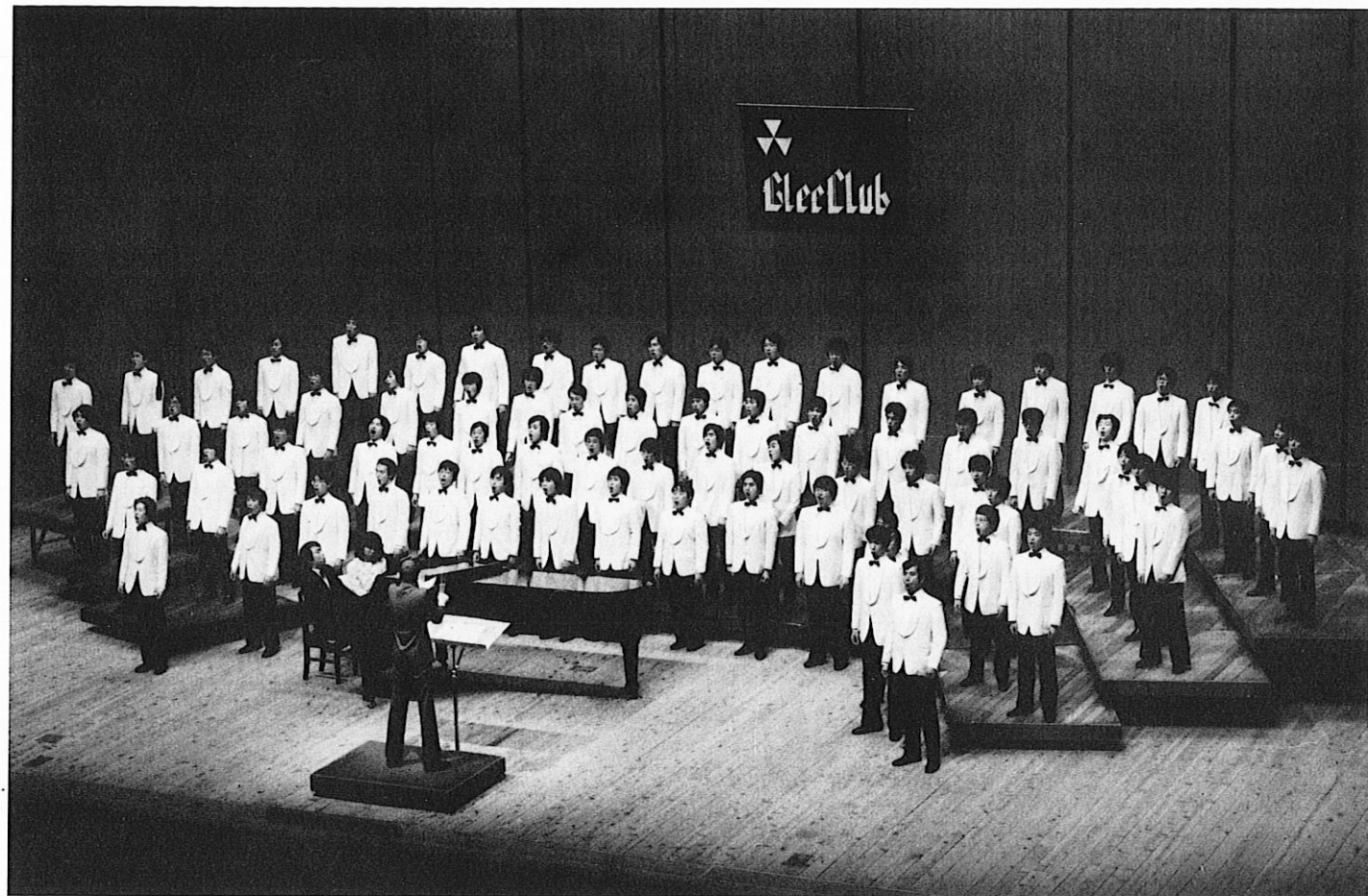
作詞 相馬御風
作曲 東儀鉄笛
編曲 山田耕筈



1 都の西北 早稲田の杜に
聳ゆる薨は われらが母校
われらが日ごろの 抱負を知るや
進取の精神 学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
かがやくわれらが 行手を見よや
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

3 あれ見よあしこの 常盤の杜は
心のふるさと われらが母校
集り散じて 人は変れど
仰ぐは同じき 理想の光
いざ声そろえて 空もとどろに
われらが母校の 名をばたたえん
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ





同志社グリークラブは小さな聖歌隊が現名誉顧問であられる片桐哲先生によって「グリークラブ」と名付けられて以来、今年で78年目を迎える日本で最も古い歴史をもつ男声合唱団のひとつです。四分の三世紀以上にも渡る長い間、千人近くに及ぶ先輩方によって培われてきた重厚なハーモニーが今日の同志社グリーを支えていることはいうまでもありません。私達もその長い伝統の重みに押しつぶされることなく、先輩方から受け継いだそのハーモニーを本日の演奏会で皆様にお伝えすることが出来るのは、この上もない喜びであります。

私達はこの同志社大学に、そしてその中の一サークルであるグリークラブにかなりの偶然性とわずかな必然性(?)をもって全国から集まってきたわけです。それぞれが様々な価値観を持ち、それぞれが自分の考えというものを持っている——そんな人間が百名近くも集まって一つのクラブとして動いていこうというわけですから、とすれば一人一人が自分

を世界の中心に置きがちになり一つのクラブとしての動きがとれなくなることがあっても決して不思議ではないと思うのです。しかし私達が音楽・合唱を志す者の集りである以上、「生きた音楽」そして「より完成に近い演奏」をそれぞれが目的としているのは当然のことなのです。同志社グリークラブとしてのあるべき方向を見失なうことなく長い間伝統を積み重ねてこれたのも、いつの時代にもグリーメン一人一人に「生きた音楽」の創造という共通の目的があったからに違いありません。

しかし、「生きた音楽」の創造といった目的に瞬でも近づけたグリーメンは幸せでしょう。私達は四年間に数多くのステージを踏みそれぞれのステージで目的に近づこうとありったけの情熱を傾けるのです。それでも満足な気持ちでグリークラブを後にすることのできる者はわずかで、中には四年間ついに一度も満足と感じた演奏はなかったという者さえいるのです。私達の演奏はたしかに未熟な

ものかもしれません。しかし私達のひたむきな情熱は誰にも負けないと信じています。この情熱がある以上、これから「生きた音楽」「より完成に近い演奏」という目的に向かって同志社グリークラブが一丸となって突き進んでいくことができるのです。本日の演奏でも皆様にそういった私達の情熱が感じとっていただけるものと信じています。

同志社グリークラブにとって今年、来年は新たな試練の時となりそうです。一つは今年の第78回定期演奏会から京都の地を離れて大阪で行なわれること、そしてもう一つは来年夏に予定されているヨーロッパ演奏旅行です。どちらも同志社グリークラブにとっては重荷かもしれませんが、私達はそれらを同志社グリークラブがさらに大きく飛躍するための契機と考えています。これからも福永陽一郎、富岡健、大久保昭男諸先生の御指導のもとで新たな前進を続けていくつもりです。皆様の多大な御批判・御支援を賜りますよう御願い申し上げます。

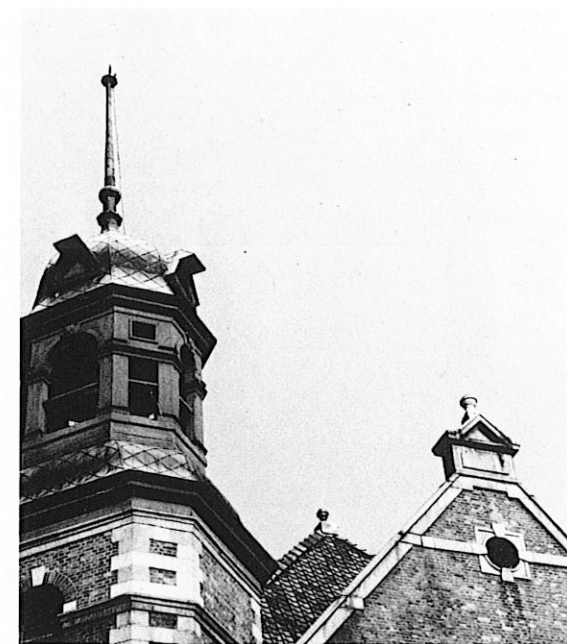
DOSHISHA COLLEGE SONG

Words by W.M.Vovies

Music by Carl Wilhelm



- 1 One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!
- 4 Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!





……何シロ三田ノ山ノ上テ音楽会トワ
開校以来未曾有ノ事テ当夜ワ左シモノ演
説館モ立錫ノ余地ナク、来賓ヤ塾生テキ
ツシリ詰ツテ中ニワ入り切レスニ悄然立
帰ツタ人多モカツタ……（三田評論二十
九号より）

三田の山にワグネル・ソサィエティー
が誕生したのは、もう八十余年も昔の事
です。冒頭に引用した文章からも、伝統
の重みを感じとっていただけたと思いま
す。我々もいわゆる“グリークラブ”な
のですが、なぜグリーを名乗っていない
のだろうと、多くの方は御考えになるで
しょう。ワグネル・ソサィエティーの名
は、我がクラブの創設者の一人である秋
葉純一氏によって、リヒード＝ヴァグネ
ルの『高遠雄渾なる楽風を敬慕して』命
名されたものです。当時にしては相当は
いからであつたろうと思われる名前を戴
き、我がクラブは今日に至っている、と
いうわけです。現在ワグネル・ソサィエ
ティーは、オーケストラ、女声合唱、そ
して男声合唱の三部門に分かれ、それぞ

れ独立して演奏活動を行っております。

ワグネルライブにおける様々な演奏会
のうちでも東西四大学の演奏会は、五月
に行われます東京六大学の演奏会と並ぶ
春のビッグイベントです。関東と関西に
ある四つの大学が集い、各校の音楽を披
露するのみならず、合同演奏まで出来る
演奏会に我々ワグネリアンも参加させて
いただくことが出来ますのも、皆様の絶
大なる御支援ならびに木下保、畑中良輔、
大久保昭男の三先生をはじめ、三浦洋一、
北村協一、福永陽一郎先生の、厳しくも
情熱のこもった御指導の賜物に他なりま
せん。このように恵まれた環境の下で音
楽できることを、ワグネリアン一同この
上ない栄えと思い、これからもより高い
ものを目指して前進を続けるべく、不断
の鍛錬をして行く覚悟でございます。

本日我々の挑みますコンポジションⅢ
は、ワグネル・ソサィエティーにとりま
してまことに思い出深い作品です。今か
ら遡ること12年、昭和44年に、ニューヨ
ークのリンカーンセンターに於て、第二

回世界大学合唱祭が開かれました。その
折日本代表として、木下保＝ワグネル・
ソサィエティーが演奏したのがこのコン
ポジションⅢでした。世界中から大いなる
賞讃を浴びた当時のメンバー達は当然
ながら既に卒業され、また木下先生もひ
とまわりお年をめされましたが、本日は
リンカーンセンターをしのぐコンポジシ
ョンⅢを創り出すべく、ワグネリアン一
同情熱的に練習に取り組んで大阪にまい
りました。洋ものを主なレパートリーと
する、はいからなワグネル・ソサィエ
ティーのコンポジションⅢから、“Nippon”
を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、今後とも我々ワ
グネル・ソサィエティーに対する遠慮な
き御批判と、変わらぬ御声援をたまわ
りますよう、よろしくお願いいたします。

慶應義塾塾歌

作詞 富田正文
作曲 信時 潔

♩ = 104 強

f

みよ かに せになる あが はた えて に

mf più mosso

じほ よす るあか つきの ーあらしの なか は

f

あめさてーぶんく のまわり たから かにーつ

allegro

らぬさてし ぼこりありーたてんか なーこ

f

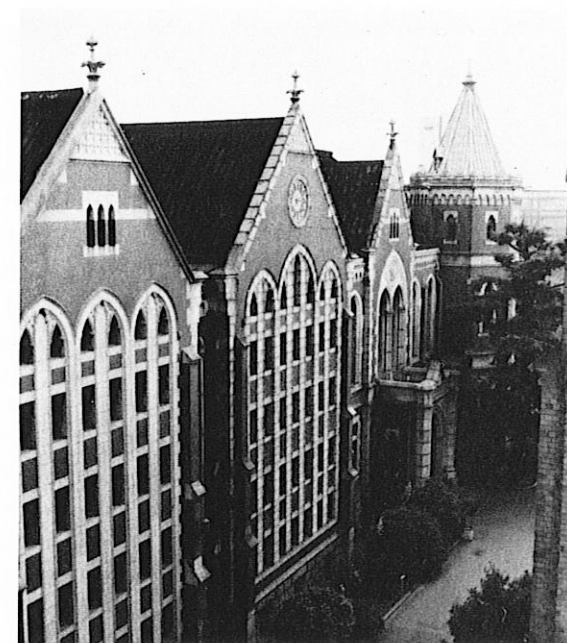
のーたをーつよく もをしく へんか なーあ

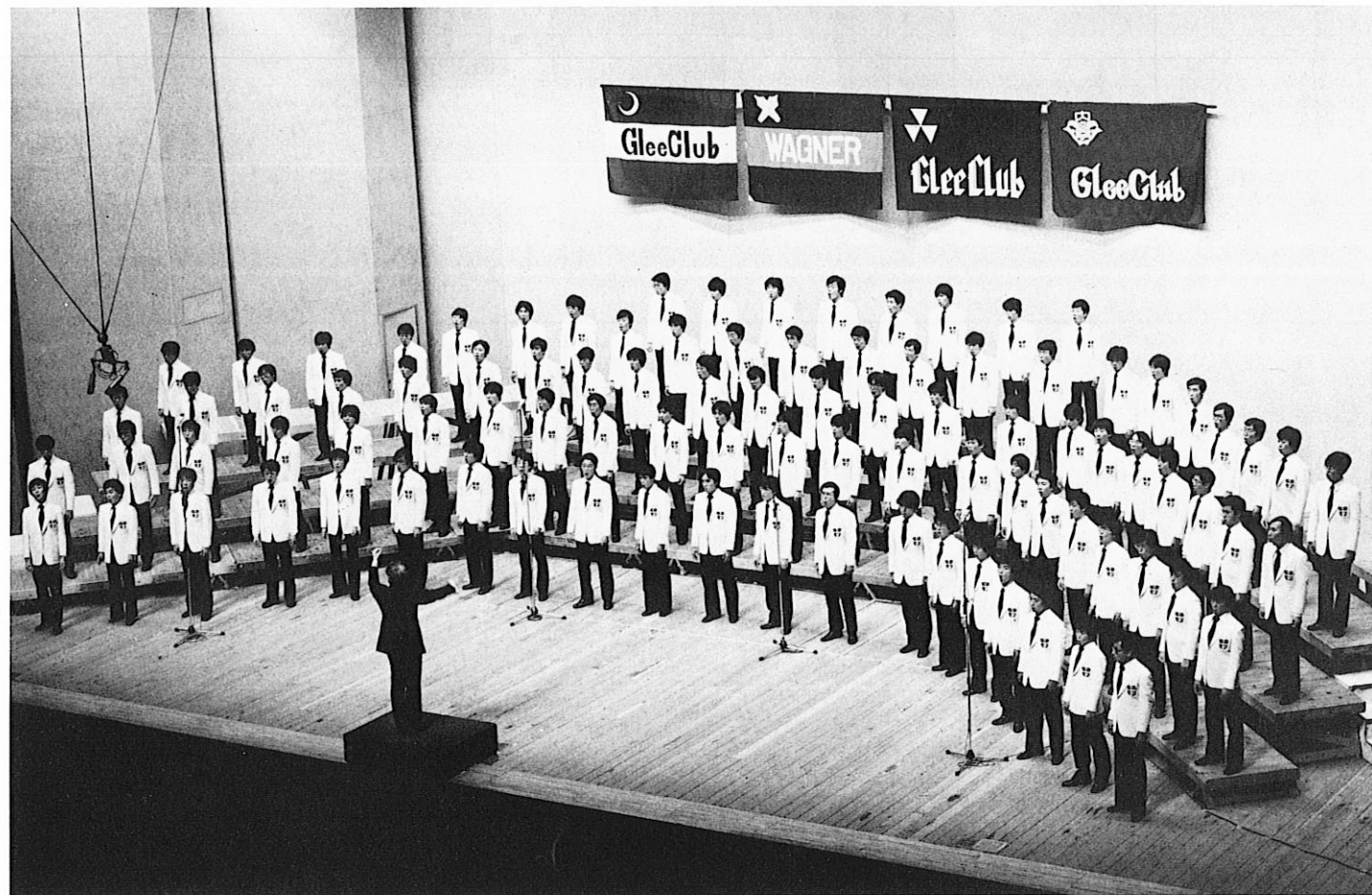
ff

あめさてーぶんく のまわり たから かにーつ

1 見よ風に鳴るわが旗を
新潮寄するあかつきの
嵐の中にはためきて
文化の護りたからかに
貫き樹てし誇りあり
樹てんかな この旗を
強く雄々しく樹てんかな
あゝわが義塾
慶應 慶應 慶應

2 往け涯なきこの道を
究めていよ、遠くとも
わが年に執れる炬火は
叡知の光あきらかに
ゆくて正しく照らすなり
往かんかな この道を
遠く遥けく往かんかな
あゝわが義塾
慶應 慶應 慶應





関西学院グリークラブ部員心得——関学グリーに入部し、初めて練習に参加したその日、上級生から借りうけ、自筆で書き写した数枚の紙。練習のこと、ステージのこと、合宿のこと、グリークラブホールのこと……。様々な心得が記されている紙。その冒頭にグリーのモットーとして次の2行が掲げられています。

Mental Harmony

練習のための練習

毎年、4年間グリーに親しんだ者が去り、何も知らない者が入ってくるという、合唱技術の面から見ると、極めて不合理な循環をくり返している大学合唱団にとって、その水準を保ち、またその上に少しずつでも実力をたくわえてゆく、ということは至難の技です。が、我々はそれをなさねばなりません。その時、我々の支えとなっているのが、グリーのモットーなのです。

1952年、早慶同関の四大学が集って、第1回の演奏会を開催して以来31年。東西四連は、常に大学合唱界最高峰の演奏

会として認められてきました。その間、我々はいつも他の三大学に負けまいと、努力を重ねてきました。が、決してそれだけを考えて練習を重ねてきたのではありません。我々は四連やリサイタルのために練習するのではなく、明日の、あさっての練習のために練習をし、その活動を通して、本当のMental Harmonyを創造してゆこうと努力してきたのです。そしてそれができた、と部員が感じた時、我々はすでに勝っているのです。

1899年、神戸原田の森に、日本最古の男声合唱団として関西学院グリークラブが誕生して以来83年。我々は、常にこのモットーを基盤とするアマチュア精神を大切にしてきました。それだからこそ、大学合唱団としてのハンディを乗り越え、逆に、それをメリットとして生かし、前進することができたのだ、と信じているのです。

さて、本日演奏致します「ギルガメッシュ叙事詩」は、我々が経験した曲の中でも、最も長大、かつ演奏の困難なもの

と思われます。青島先生から楽譜が少しずつ届く度に、部員が顔を青くした、という曲で、今まで見たことのないような記譜法が随処に見られます。四連当日までもう1ヶ月もない、という今でさえ、本当にこの曲を四連のステージで演奏できるのだろうか、という不安に陥ることがある位です。しかし、せっかく与えられた“初演”の機会を無駄にはできません。歌っているグリーメンが納得し、聞いておられる方々の心をも打つ演奏が出来ることを信じ、毎日の練習を重ねています。

今後も、林雄一郎、畑中良輔、北村協一、大久保昭男諸先生方の御指導の下、新たな伝統を築き上げてゆく覚悟であります。我々関西学院グリークラブに今まで以上の御声援を宜しくお願い申し上げます。

College Song

A SONG FOR KWANSEI

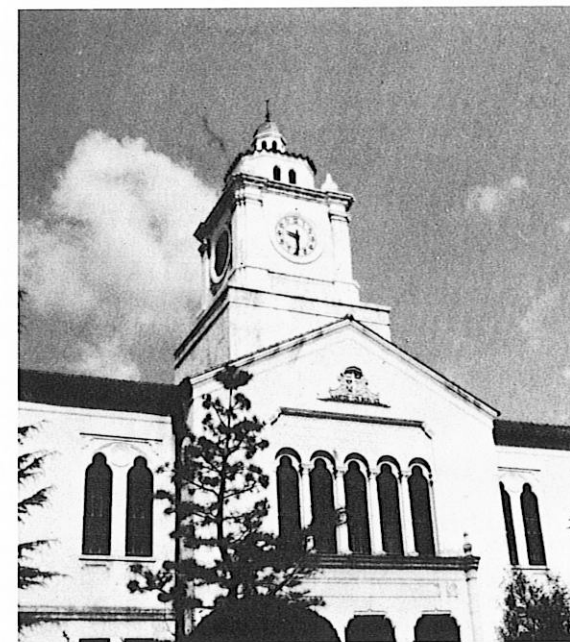
作詞 E.Blunden

作曲 山田耕筰

編曲 林雄一郎



1. That we may both receive and give,
May live to learn, and learn to live,
Kwansei, we throng;
To you we throng, not first nor last,
Rejoicing in your fruitful past,
Through seasons clear or overcast
Still true and strong.
2. For us the present time is grace,
With thankful hearts we take our place,
Kwansei, our own;
And, each and all, will count these hours
Beneath your trees, beneath your towers,
One long succession of kind hours,
The sweetest known.



■早稲田大学グリークラブ

会長 上田 稔 顧問 磯部 俣 指揮者 福永陽一郎・小林研一郎・小泉ひろし・田中一嘉 ヴォイス・トレーナー 山本健二

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
泉沢 信哉(社4)館林	赤塚 明俊(社4)墨田川	青木 浩一(文4)小金	岩渕 靖宏(文4)一関二
大越 智(理4)会津	沖本 憲嗣(商4)斐太	小林 茂(法4)小千谷	河野 弘毅(教4)茨城キリスト
小沢 直樹(文4)菊里	小林 達夫(文4)新城	佐渡谷信寛(社4)鎌倉学園	常見 晃(法4)川越
目黒 弘嗣(文4)会津	武熊 聡(商4)三鷹	重岡 哲郎(教4)大洲	相川 拓雄(政3)甲陽学院
渡部 宏夫(法4)会津	正木 一弘(文4)川越	渡辺 茂孝(文4)上田東	佐々木 豊(教3)立川
石井 潔(社3)豊多摩	室井 隆(教4)三田	一門 俊光(文3)都立大附	笹原 優樹(商3)小樽潮陵
今中 徹(政3)甲陽学院	石亀 昌郎(文3)横浜翠嵐	柿沼 新(教3)不動岡	平林 泰夫(法3)立川
兼子 裕(法3)早稲田	杉野 耕一(法3)今治西	高橋 正(法3)会津	道浦 俊彦(政3)長尾
佐伯 直(文3)府中西	竹腰 昇(理3)青山学院	安田 俊夫(商3)川越	山田 裕之(法3)桐朋
沼野 光重(法3)浦和	芳賀 義也(政3)国立	青池 昌博(文2)三鷹	渡辺 敦郎(政3)立川
岡野 高広(社2)早稲田	村田 清(法3)杉並	小林 幹郎(社2)市川	具志堅 泉(社2)光陵
佐藤 正基(社2)鶴岡南	秋田 浩(理2)桃山学院	川和田宏憲(文2)仙台	新保 裕之(文2)函館ラ・サール
辻村 哲(商2)早稲田	大鹿 達人(文2)希望ヶ丘	近藤 剛広(理2)栃木	鈴木 秀樹(教2)神代
松永 伸介(文2)浅野	片桐 直彦(商2)小山台	菅野 達也(商2)八千代	樽屋 尚之(法2)船橋
数下 真平(社2)東稜	高瀬 正考(法2)淳心学院	渡辺 明良(社2)釧路湖陵	新関 雅俊(理2)成蹊
	武田 知見(法2)丸亀		野山 広(文2)長崎南
	南條 雅明(文2)旭川東		
	利光 敬司(商2)大分上野丘		
	松永 裕介(理2)浅野		

■同志社グリークラブ

名誉顧問 片桐 哲 顧問 遠藤 彰 技術顧問 福永陽一郎 指揮者 富岡 健 ヴォイス・トレーナー 大久保昭男

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
畠中 達哉(法4)上宮	池田 英生(経4)堀川	小田垣正美(商4)兵庫生野	前田 洋孝(商4)小山台
加古 立史(文4)宝塚	木村 計司(文4)桂	佐藤 隆弘(経4)大阪生野	佐藤 敏(経4)滝川
栗原 毅(商4)天王寺	松井 謙之(法4)清風	高井 啓行(法4)桐蔭	里内 知巳(文4)膳所
楠 敏也(法4)同志社	田中 哲夫(文4)三条	武田 祥和(文4)巻	高沢 隆司(文4)桜塚
西山 勲(経3)春日丘	上田 慎一(工4)鳳	土佐 易弘(経4)清風	薬師神重司(経4)八幡浜
斉藤 睦彦(神3)福島	溝端 利文(文3)同志社香里	藤井 啓三(商3)修道	藤本 和久(工3)奈良
豊田 尚紀(経3)郡山	諸江 修(文3)高崎	長谷川恵一(経3)五条	橋本 裕和(経3)同志社
梶原 昌彦(法2)済々黌	須藤 彰治(商3)同志社香里	仲 貴司(商3)宝塚	鋒山 琢磨(文3)同志社香里
河村 一良(商2)福岡	鈴木 典夫(文3)福島	小田 尚紀(経3)清風	飯田 勝美(法3)敢傷
宮井 健(工2)雲雀丘	吉田 進次(商3)住吉	内野 直樹(経3)明星	松栄 良太(法3)同志社
森 知史(工2)北野	餅 一隆(商3)三本松	山岡 敬(法3)城東	岡田 和弘(文3)三木
佐々木 涉(経2)高松西	日比 敏也(経2)大府	伊勢三十六(文2)篠山鳳鳴	片岡 和彦(経2)小倉
山中 光(商2)高陽	中小路智一(法2)大教大付天王寺	大嶋 誠司(商2)小倉	久保田哲哉(工2)三池
	篠原芳兵衛(商2)大和川	渡辺 直樹(商2)熊本	中西 雅樹(経2)泉北
	辻 透(商2)洛北	山内 豊(商2)桜塚	中田 克之(法2)交野
			西尾 強志(文2)上宮
			白井 幸彦(法2)福岡
			田中光太郎(経2)佐賀西
			和田 秀樹(経2)益田

■慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

顧問 村田武雄・千種義人・神谷傳造・山田太門 部長 福岡正夫 顧問指揮者 木下 保 専任指揮者 畑中良輔 ヴォイス・トレーナー 大久保昭男

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
田幡 克介(経4)慶應	氏平 治(法4)芳泉	遠藤 哲(工4)函館ラ・サール	小沢 政寿(経4)甲府南
都留 俊輔(経4)戸山	鷹箸 伸一(商4)日比谷	桑田 一徳(政4)光陵	須田 和宏(法4)慶應
中川 暢(経4)慶應	野本 享史(経4)足利	飛川 竜哉(文4)芝学園	成田 洋平(政4)光陵
中島 隆信(経4)栄光学園	畠山紳一郎(工4)函館ラ・サール	長尾 雄平(商4)西宮北	原田 洋介(商4)平塚江南
伊藤 康弘(政3)明治学院東村山	早川 毅(商4)慶應	中島 晃(経4)防府	船橋 博隆(政4)川越
太田 明彦(政3)向丘	今井 達也(経3)慶應	中田 芳男(商4)芝学園	築田 謙治(経4)星陵
亀井 淳一(政3)慶應	翁長 良二(法3)暁星	安田 俊哉(政4)松蔭	神村 淳一(法3)会津
香西 茂樹(商3)高松	加納 利浩(法3)松江北	柳原 正光(政4)慶應	堤 浩一(商3)佐賀西
高橋 和宏(商3)鎌倉	清水 智裕(政3)四日市	沖津 和宏(政3)光陵	畑中 格(法3)高槻
山崎 修(商3)川越	助野 直彦(商3)神戸	梶川 憲男(工3)藤島	菊池 泰(理2)湘南
板垣 武志(商2)函館ラ・サール	松口 裕重(経3)慶應	澤口 雅昭(商3)盛岡第一	島田 哲(経2)川越
角本 雅宣(経2)姫路西	間宮 章生(経3)青森	藤川 千洋(政3)洛南	下郡 実(経2)大教大付平野
桑田 浩(政2)西宮	吉田 豊(政3)津	渡辺 寿郎(工3)桜丘	田中 朋之(理2)Rolling Hills
斉藤 寛行(政2)佼成	古満 繁(政2)松江北	池口 司(法2)大門	吉田 泰資(経2)浦和
神原 浩康(経2)東葛飾	斉藤 亮(文2)明治学院	北島 洋樹(文2)柏陽	保坂 文一(商2)慶應
提 敦史(経2)伊勢	清水 貞敏(商2)東山	日下部 寛(商2)姫路西	
東 克己(理2)岡山操山	城下 英之(商2)山口豊浦	佐藤 雅通(商2)希望ヶ丘	
吉田 孝弘(政2)古河第三	鈴木 達郎(経2)岡崎	館山 友宏(経2)函館中部	
渡辺 英一(法2)安積	辻本 宏之(商2)甲陽	平尾 啓(理2)北野	
	中田 一夫(商2)駒場東邦	星 博美(法2)磐城	
	藤本 淳(文2)名張桔梗丘	松下 裕一(理2)岐阜	
	山香 朗(経2)青山学院		

■関西学院グリークラブ

顧問 今田 寛 技術顧問 林雄一郎 常任指揮者 北村協一 ヴォイス・トレーナー 大久保昭男

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
竹中 俊哉(経4)関西学院	北村 勲(商4)八鹿	岡本 拓也(法4)関西学院	山田 真也(経4)名古屋北
坂口 和彦(理4)北野	山本 哲也(商4)報徳学園	松下 浩和(文4)上宮	寺田 裕之(経4)住吉
河田 勝(社4)旭	中島 勝美(法4)柳井	山本 義和(法4)鳳	石田 一郎(法4)桃山学院
山田 雅浩(社4)足羽	高村 哲夫(商4)岡山朝日	伊藤 雅之(経4)阿倍野	近藤 広行(法4)赤穂
三田 欣弘(社3)小倉西	田中 康彦(文3)府中	間所 俊夫(経4)丹生	宇佐美 健(経3)菅合
近藤 裕介(経3)豊中	飯田 幸生(社3)阿波	野坂 哲夫(法4)泉陽	永合 幹弥(法3)新宮
作田 剛(社3)金沢星稜	西田 淳一(商3)和泉	沢 剛(法4)立命館	高橋 恵三(経3)土庄
殿村愛一郎(法3)名古屋北	天匂 好昭(商3)宝塚	太田 直宏(法3)桐蔭	中村 和正(法3)鳳
若井 敬(経3)関西学院	橋本 尚樹(商3)関西学院	名村 誠(経3)瀬戸	渡辺 弘之(法3)今宮
今井 博(文3)大教大付天王寺	平川 博司(経3)新宮	河村 徹(文3)城南	前田 昌男(経3)西宮南
小若井雅人(商3)佼成学園	村田 浩之(法3)高鍋	池永 明(法3)桐蔭	南 昌明(商3)和泉
山下 寛(理3)関西学院	竹見 孝弘(経3)神戸	津田 耕一(社3)姫路東	鈴木 秀俊(社3)池田
門澤 秀樹(商3)関西学院	田中 幸成(経3)神戸	江口 範行(商3)姫路	今田 雅文(経3)丸亀
岡 明彦(法3)富岡西	香西 孝喜(商3)西宮	小杉 寿彦(社3)金沢西	石田 雅一(文3)関西学院
長谷川景一(商3)関西学院	西山 英男(商3)出雲	猿丸 良一(経3)関西学院	石崎 隆造(社3)芦屋
片山 悟(経3)岡山操山	西谷 秀樹(文2)八鹿	堀井 一宏(文3)尾道北	諫山 敏明(法2)那賀
古田 昌宏(法3)西宮	平松 大輔(法2)関西学院	棕田 哲男(社3)兵庫	前山 誠(文2)清風
庄山 浩司(法3)関西大倉	三戸 勝政(法2)桜ヶ丘	小杉 穂高(商3)関西学院	松本 和巳(商2)広島舟入
隅谷 義孝(文2)明石南	野口 雅章(商2)大手前	辰井 哲(商3)市立西宮	鬼頭 悟(経2)明和
米村 義則(法2)金沢錦丘	藤岡 義章(商2)北陽	谷口 芳正(経3)篠山鳳鳴	吉田 徹(経2)牧野
櫻本 大(理2)関西学院	田中 福祉(法2)岡山芳泉	中村 正男(法3)木本	津田 良司(法2)関西学院
瀬戸 裕之(法2)旭	相馬 也卓(法2)住吉	福明 正樹(社2)岡山大安寺	福島 広之(法2)関西学院
本江 健司(商2)砺波	高嶋 甲希(法2)関西学院	櫻並 良樹(社2)河南	門脇 哲郎(商2)関西学院
		恵谷 篤嗣(商2)関西学院	福本 裕行(経2)関西学院
		飯田 栄一(経2)関西学院	山本 洋二(法2)北野
		八木 徹(法2)関西学院	多 一郎(法2)武庫荘
		戸田 義信(商2)鈴蘭台	
		青木 克爾(社2)上宮	
		神徳 和男(経2)尼崎西	
		伊藤 正博(法2)勝山	

東西四大学合唱演奏会史

- ◆第1回
昭和27年 9月21日(日) 同志社栄光館
23日(火) 大阪産経ホール
合同演奏 長井 斉 指揮
「Ave Maria」「愛でし友」
- ◆第2回
昭和28年 9月20日(日) 日本青年館(昼夜)
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「いざ起て戦人よ」「おお美しき星よ」
「希望の島」
- ◆第3回
昭和29年 9月18日(土) 同志社栄光館
19日(日) 大阪産経ホール
合同演奏 長井 斉 指揮
「Zum Gloria」「Zum Sanctus」
「秋のピエロ」
- ◆第4回
昭和30年 9月18日(日) 日本青年館(昼夜)
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「Die Nacht」
シュベルト「詩篇」103篇 WEdanita
- ◆第5回
昭和31年 9月15日(土) 宝塚大劇場
16日(日) 同志社栄光館
合同演奏 林雄一郎 指揮
「通りゃんせ」「おどろいた」「夕やけ」
「水夫の歌」
- ◆第6回
昭和32年 6月23日(日) 日本青年館(昼夜)
合同演奏 磯部 俊 指揮
「夏が来たかと」「ふるさと」
- ◆第7回
昭和33年 6月21日(土) 同志社栄光館
22日(日) 大阪毎日ホール
合同演奏 D.ラーション 指揮
「Rock my soul」
「What kind a shoes」
「Never said a numbarin' word」
「Joshua fit de battle of Jericho」
- ◆第8回
昭和34年 6月21日(日) 共立講堂(昼夜)
合同演奏 木下保 指揮
山田耕筈作品集
「待ちぼうけ」「からたちの花」
「あわて床屋」「ベチカ」
- ◆第9回
昭和35年 6月25日(土) 京都会館ホール
26日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 長井 斉 指揮
「兵士の合唱」「巡礼の合唱」
- ◆第10回
昭和36年 6月17日(土) 東京文化会館
18日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
「枯木と太陽の歌」

- ◆第11回
昭和37年 6月23日(土) 京都会館ホール
24日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「Listen to de Lambs」
- ◆第12回
昭和38年 6月22日(土) 東京文化会館
23日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
「若者の歌」
- ◆第13回
昭和39年 6月13日(土) 京都会館ホール
14日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 北村協一 指揮
「Credo」
- ◆第14回
昭和40年 6月19日(土) 東京文化会館
20日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
男声合唱のための組曲「蛙の歌」
- ◆第15回
昭和41年 6月11日(土) 京都会館ホール
12日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「枯木と太陽の歌」
- ◆第16回
昭和42年 6月24日(土) 東京文化会館
25日(日) 東京文化会館
合同演奏 畑中良輔 指揮
歌劇「フィディオ」より「囚人の合唱」
歌劇「さまよえるオランダ人」より
「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」
- ◆第17回
昭和43年 6月22日(土) 京都会館ホール
23日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 北村協一 指揮
「阿波祈禱文」「黙示」
- ◆第18回
昭和44年 6月22日(日) 東京文化会館
23日(月) 東京文化会館
合同演奏 濱田徳昭 指揮
「デュオバのミサ」より「Kyrie」
「Credo」「Agnus Dei」
- ◆第19回
昭和45年10月26日(月) 大阪フェスティバルホール
27日(火) 同志社大学学生会館ホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
男声合唱組曲「海の構図」
- ◆第20回
昭和46年 6月26日(土) 東京文化会館
27日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
「Hymne An Die Musik」

- ◆第21回
昭和47年 7月1日(土) 京都会館ホール
2日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 畑中良輔 指揮
歌劇「フィディオ」より「囚人の合唱」
歌劇「さまよえるオランダ人」より
「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」
- ◆第22回
昭和48年 6月23日(土) 東京文化会館
24日(日) 東京文化会館
合同演奏 福永陽一郎 指揮
男声合唱組曲「海の構図」
- ◆第23回
昭和49年 6月16日(日) 大阪フェスティバルホール
17日(月) 京都会館第一ホール
合同演奏 小林研一郎 指揮
「十の詩曲」による六つの男声合唱組曲より
「怒りの日」「鎮魂歌」「歌」
- ◆第24回
昭和50年 6月21日(土) 東京厚生年金会館大ホール
合同演奏 北村協一 指揮 (昼夜)
「アイヌのウボボ」
- ◆第25回
昭和51年 6月20日(日) 大阪フェスティバルホール
21日(月) 京都会館第二ホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
歌劇「タンホイザー」第3幕から
- ◆第26回
昭和52年 6月25日(土) 東京文化会館
26日(日) 東京厚生年金会館大ホール
合同演奏 E.ボルン 指揮
「オペラ合唱名曲集」より「僧侶の合唱」
「囚人の合唱」「巡礼の合唱」「狩人の合唱」
「水夫の合唱」「学生の合唱」
- ◆第27回
昭和53年 6月25日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 北村協一 指揮 (昼夜)
男声合唱組曲「富士山」
- ◆第28回
昭和54年 6月24日(日) 東京文化会館
25日(月) 新宿文化センター
合同演奏 福永陽一郎 指揮
男声合唱のための組曲「蛙の歌」
- ◆第29回
昭和55年 6月22日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 林雄一郎 指揮 (昼夜)
男声合唱とオルガンのための「ミサ曲」ハ短調
- ◆第30回
昭和56年 6月20日(土) 東京厚生年金会館大ホール
21日(日) 東京文化会館大ホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
十の詩曲より「六つの男声合唱曲」
- ◆第31回
昭和57年 6月20日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 山田一雄 指揮 (昼夜)
「アイヌのウボボ」

編集後記

印刷を担当することになり早め早めに進めようと思いながらも、またいつものように最初の予定よりもおくれるという結果になりました。多くの方々に御迷惑をかけたしまいました。

今回、すべてのデザインを引き受けていただきました新田さんをはじめ、原稿をお寄せ下さいました諸先生方、快く広告の依頼に応じて下さった広告主の皆様、そして我々の無理をきいて下さった中央印刷の皆様に、この場をかりて心より御礼申し上げます。



THE JOINT

BE IN SENSATION

1982
THE
5TH
JOINT
CONCERT
IN
KYOTO

1982
6.27 (sun)
2:30 PM
KYOTO-KAIKAN
2nd HALL

明治大学
混声合唱団
更科源次郎 作詞
広瀬隆平 作曲
混声合唱曲

立命館大学
混声合唱団
メデックス
高野喜久雄 作詞
高田三郎 作曲
混声合唱曲

合同曲
JOHANNES
BRAHMS
Dein Herzlein mild
Rosmarin
Waldesruh
Drei Motetten OP.110
混声和声・指揮

海鳥の詩
本多 宏 指揮
井上尚子・ピアノ
BORIS MANSKY 作曲
KOHLÉPT no.24,29
(本邦初演) 持宮 章 指揮

わたしの願い
高木孝雄 指揮
山元由美子・ピアノ

¥500
京都市北区等持院北町56-1
学生会館BOX106

Joint Concert ～雨音がすぎ去ったあとに～

1. ノートルダム女子大学女声合唱団「葡萄の歌」
 2. 龍谷大学混声合唱団ラポール「筑後川」
 3. 同志社リーダー・克蘭ツ・コール「北斗の海」
 4. 合同演奏
Haydn「MARIAZELLER MASS」
客演指揮 富岡 健
独唱 ソプラノ 中村千恵子
アルト 桑田 愉子
テノール 平松実留
ベース 石原 哲
管弦楽 アムジ室内合奏団
- 1982年6月30日(水) 京都会館第1ホール
開場6:00 P.M. 開演 6:30 P.M. ¥600



- 1982年7月2日<金> 午後7時開演 京都会館第1ホール
A席 ¥2000(当日指定) / B席 ¥1500(自由席)
- オンゴー・オーニ 間宮芳生 昭和56年度芸術祭大賞受賞
合唱のためのコンポジション第10番
- レクイエム I. PIZZETI 第33回全日本合唱コンクール金賞受賞曲
死者のためのミサ曲
- THIS IS ECHO 第34回全日本合唱コンクール金賞受賞曲
「Friede auf Erden」ほか
- 後援/京都市・関西合唱連盟・日本放送協会 マネージメント/(財)京都会館サービスセンター <TEL(075) 771-6051>
- 大阪公演 1982年12月19日<日> 午後2時開演 ザ・シンフォニーホール
客演指揮 日下部吉彦 主催/合唱団京都エコー <Tel. (075) 711-3865>

第20回 京都女子大学女声合唱団定期演奏会

- I 仏教小品 指揮：田村 忠男
- II 東北地方のわらべうた 森本 恭子
- III ルロイ・アンダーソンの世界
- IV 水のいのち

1982年7月10日(土) 6:30p.m開演 ● ¥600 京都会館第2ホール

お問合わせ BOX (075) 531-7304 / 瀬戸 (075) 351-4862

旅。いい知れぬ興奮と解放感にみちた、偉大なロマン。

新しい生きがいを求め「旅」をクリエイトする富士海外旅行—。

海外旅行・国内旅行—あらゆる旅に関する情報をご紹介します。



富士海外旅行株式会社

電話 (345-1281) 代 大阪市北区堂島浜通2-1-1 (サントリービル) 郵便番号530

代表取締役副社長 松添 壮 (昭25年卒)・仲 功 (昭40年卒)・熊代紘一 (昭39年卒)
山口行雄 (昭45年卒) 入江昭彦 (昭53年卒)・水野秀彦 (昭55年卒)
植嵐 毅 (昭55年卒) 長岡憲司 (昭56年卒)・辻本久美 (昭56年卒)

過去5回の関西学院グリーンクラブコンサートツアーは当社にてお世話させていただきました。

鍋料理・会席
各種折詰弁当

あぶす

京都市上京区寺町今出川上ル

電話 231-5121・5122

京の都に本場さぬきの味を……

手打だからおいしい。うどん定食 480円より、うどん 300円より、
丼 定食 430円より。

◎きつねうどん 330円

◎屋島うどん 480円

◎天ぷらうどん 600円

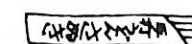
◎桶天うどん 600円



天ぷらうどん定食
六八〇円

天井定食
六五〇円

天ざる
600円



手打うどん

(釜うどんすき 1人前 1700円)

四条河原町
セブンエイト
食堂街

さぬき

四条河原町阪急百貨店
7F 食堂街
TEL 075 (255) 3534

NM ニューミュンヘン

- 本社 TEL (312) 0131
- 本店 TEL (311) 3381
- 北大使館 TEL (312) 9151
- 南大使館 TEL (211) 8828
- かよてんか TEL (211) 7248
- 貴賓室 TEL (364) 7122
- 神戸大使館 TEL (391) 3656
- ナンバ大使館 TEL (633) 8461
- 見本市大使館 TEL (573) 4777
- 香港店日本料理大阪 TEL (九竜) 674338

★SAPPORO BEER HALL

ステージの出来映えを変えるコート

本日のステージコート
作成の店

司屋株式会社

大阪マーチャндаイズマート11階
TEL 06 (943) 3100

PS osaka photo

(株)大阪フォト サービス カンパニー

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL 06(443)7608(代表)

ひとつの製品を完成させるにあたり、各分野の専門スタッフが、全力を傾注しています。正確に、スピーディに、しかも、密度の高いものを目指し、ひとつの輪は、今日も明日もたゆまず動きつづけます。

★

★

いま、何かをお求めなら

グリーンメンと共に歩む

★

★

印刷を通じて気さくなおつきあい

中央印刷株式会社

・本社 593 堺市鳳東町5丁487-56 TEL.0722(73)1151(代)
・大阪営業所 542 大阪市南区谷町6丁目6番7号 TEL.06 (763)2632(代)

素晴らしい音とハーモニーの 東芝合唱シリーズ

グリークラブ・アルバム

グリークラブ・アルバム V

●TA-72074 ￥2,300



●フィンランディア
●やまびこ
●いとしのマドンナ
●アヴェ・マリア
(アルカデルト)
●聖史曲
●剣と竖琴
●冬のセレナーデ
●Holly Night
●指揮/福永陽一郎、北村協一
●合唱/関西学院グリークラブ、慶応義塾
ワグネル・ソサエティ・男声合唱団、
同志社グリークラブ、早稲田大学グリー
クラブ (50音順)

グリークラブ・アルバム VI

●TA-72075 ￥2,300



●Swing Low Sweet Chariot
●Set down servant
●I've got Six Pence
●Homeward Bound
●Erie Canal
●Rolling Home
●斎太郎節
●島原の子守唄
●指揮/福永陽一郎、北村協一
●合唱/関西学院グリークラブ、慶応義塾
ワグネル・ソサエティ・男声合唱団、
同志社グリークラブ、早稲田大学グリー
クラブ (50音順)

●TA-60050 ￥2,000
からたちの花/姿やの家/遙かな友に/水夫のセレナード/権兵衛が種まく
家路/他全22曲

●TA-60051 ￥2,000
キリエ・エレイソン(デュオウバ)/菩提樹/ローレイ/別れ/自由の歌/ス
ティール・アウェイ/他全24曲

●TA-60088 ￥2,000
最上川舟唄/ソーラン節/出船/おもてやん/夕やけこやけ/雪の降る街を/
螢の光/他全17曲

●TA-60089 ￥2,000
年の別れ/遠くへ行きたい/雨/君といつまでも/オレグ公の歌/希望の島
森の歌声/他全18曲

●指揮/福永陽一郎、北村協一
●合唱/関西学院グリークラブ、慶応義塾ワグネル・ソサエティ・男声合唱団、上智
大学グリークラブ、同志社グリークラブ、立教大学グリークラブ、早稲田大学グリー
クラブ

7月21日発売 現代合唱曲シリーズ

■萩原英彦作品集「白い木馬」深き淵より

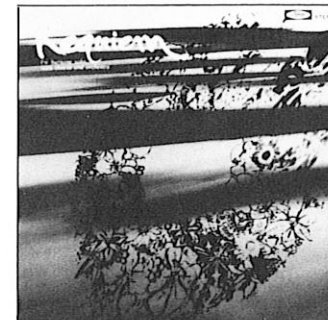
●TA-72082 ￥2,300
●混声合唱組曲「白い木馬」(ブッシュ孝子)
一陣の強い風がぶどうの枯葉を吹きとばし/ゆきんこが遠い国から/折れたバラ/小さ
な詩/名も知らぬ異国の港町にて
●混声合唱組曲「深き淵より」(ゆきやなぎれい)
思い出になりきれない思い出/雪の音/夜ふけの珈琲のかおり/いえずへのこうぎ/う
たをうたうてあげたい
●指揮/福永陽一郎 ●副指揮/浅井敬堂 ●合唱/合唱団京都エコー ●ピアノ/久遠之宜

現代合唱曲シリーズ

レクイエム

バリトン独唱、男声合唱及び
オーケストラのための

●TA-72076 ￥2,300



作曲: 三木稔
前奏曲/第一楽章/第二楽章/第三楽章/
第四楽章/第五楽章
●指揮/福永陽一郎
●バリトン/山本健二
●合唱/早稲田大学グリークラブ
●演奏/東京アカデミック・ウィンド・
オーケストラ
●監修/福永陽一郎、北村協一

「わがふるき日のうた」海に寄せる歌 多田武彦 作品集

●TA-72077 ￥2,300



●男声合唱組曲「わがふるき日のうた」
(三好達治)
藝のうへ/湖水/Enfance finie(アンファ
ンスフィニ)/木兎/郷愁/鐘鳴りぬ/雪は
ふる
●男声合唱組曲「海に寄せる歌」
(三好達治)
砂上/仔羊/涙/この浦に/鷗どり/既に
鷗は/ある橋上にて
●指揮/福永陽一郎
●合唱/同志社グリークラブ
●監修/福永陽一郎、北村協一

月光とピエロ

堀口大学の詩による作品集

●TA-72068 ￥2,300



●男声合唱組曲「月光とピエロ」
(清水 脩)
月夜/秋のピエロ/ピエロ/ピエロの嘆き/
月光とピエロとピエロの唐草模様
●男声合唱組曲「ヴェニウス生誕」
(大 中 恩)
手風琴/手風琴又/ヴェニウス生誕/乳房
/ダンテルの落
●「月下の一群」フランスの詩による
男声合唱曲集 (南 弘明)
小曲(フィリップス・シャヴァネックス)/輪
踊り(ポール・フォーレ)/人の云ふことを信
じるな(フランシス・ジャム)/海よ(催眠歌)
(アンドレ・スビール)/秋の歌(ポール・ヴ
エルレーヌ)
●指揮/北村協一、福永陽一郎
●ピアノ/久遠之宜
●合唱/関西学院グリークラブ、東海メ
ルクウィアー、早稲田大学グリークラブ

■平吉毅州・三枝成章作品集「さすらいの航路」「川よ とわに美しく」

●TA-72083 ￥2,300
●男声合唱のための組曲「さすらいの航路」(片岡 輝)
竜骨よ やすらかに/さんざめく生命/よみがえりの時はいつ
●男声合唱組曲「川よ とわに美しく」(米田栄作)
秋哲道童子/永遠の川/荒廃に立ちて/静脈の川/川よとわに美しく
●指揮/北村協一 ●ピアノ/久遠之宜 ●シンセサイザー/向谷 実
●合唱/関西学院グリークラブ、立教大学グリークラブ